

平成 2 1 年 度

# 研 究 集 録

— 川越市教育委員会委嘱学校研究 —



川 越 市 教 育 委 員 会

## あいさつ

川越市教育委員会教育長

新井孝次

昨年4月より新学習指導要領への移行期間が始まり、各学校では円滑な実施に向けて準備が進められているところです。また、新しい時代の要請に応えるべく「生きる力」をはぐくむ教育を目指した特色のある取組が期待されております。

次代を担う子どもたちを健やかに育てることは、現在に生きる私たち大人の責務です。これからの社会に必要な、「課題を見出し解決する力」や「新しい知識、情報、技術を生み出していく力」は、子どもたちのみならず、大人にも要求されます。さらに、学校教育の担うところは大きく、教師はその力量を高めるために研鑽を積まなければなりません。教師の力量は、指導技術・方法のみならず、いかに児童生徒の意欲を喚起させることができるかといったことも含まれます。意欲は行動の源であり、学力・体力・規範意識の向上に必ず通ずるからです。

平成21年度川越市教育委員会委嘱の各学校研究では、自校の児童生徒の実態から課題を的確に把握した上で、指導方法の工夫はもとより、意欲を喚起する様々な手立てが講じられております。一人一人に分かる喜びやできた喜びを味わわせることや学び合いの中でやる気をもたせる取組などが見られます。また、新学習指導要領でも重視されている児童生徒の表現力・コミュニケーション能力の育成に視点をあてた研究も多く、「子どもたちが自信をもって自分の考えを伝えられるようになった」「子どもたち同士の関わり合いの中で互いを認め合い、高め合う姿がみられた」といった姿に表れております。その成果が、ここに「研究集録」として刊行されることとなりました。委嘱学校研究2年次の7校、1年次の4校それぞれが、全職員で協力し真摯に研究に取り組みましたことに心から敬意と謝意を表すものであります。

本冊子に紹介された学校研究の成果を各学校での指導内容、方法の工夫・改善策として積極的に活用されることを期待しております。また、今後は義務教育9年間を見通した児童生徒の育成に向けた教育課程や地域、家庭との連携などの研究が望まれるところです。

結びに、委嘱研究に携わってこられた各学校及び地域・保護者の皆様の御尽力と、御指導くださいました関係各位の御厚意に対し、改めて感謝申し上げあいさついたします。

## 目 次

(学校名)	(研究主題)	(ページ)
<b>【2年次】</b>		
中央小学校	「心身ともにたくましい児童の育成」 －仲間とともに運動する喜びを味わえる体育活動の研究－	…… 1
仙波小学校	「算数大好き！仙波っ子」の育成 －学び合いを中心にした指導法の工夫改善－	…… 5
霞ヶ関北小学校	「コミュニケーション能力を育む授業の創造」	…… 9
南古谷中学校	「活力ある学校づくり」 －笑顔あふれる南古谷中学校生徒の育成を目指して－	…… 13
<b>【1年次】</b>		
川越第一小学校	「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」 －豊かな心とたくましい体を育む体育指導の工夫－	…… 17
月越小学校	「主体的に「生きる力」を身に付ける児童の育成」 －思考力を高めるためのコミュニケーション能力の育成をめざして－	…… 21
高階小学校	「論理的に考え表現できる児童の育成」 －論理的に考える力を育てる国語科の学習指導－	…… 25
高階南小学校	「共に学び合う子どもの育成」 －集団の中で、個が生きる特別活動－	…… 29
川越西小学校	「確かな言語能力を育む国語科指導」 －読むことの学習を通して－	…… 33
東中学校	「自ら進んで主体的に健康づくりに取り組む生徒の育成」 －基本的な生活習慣の定着をめざした歯・口の健康づくりに 関する指導－	…… 37

## 研究主題

# 「心身ともにたくましい児童の育成」 ～仲間とともに運動する喜びを味わえる体育活動の研究～

川越市立中央小学校

### 研究のポイント

- 体育の授業を通して、子ども同士の関わり合いを工夫することにより、仲間とともに学び合い、高め合うことができる児童の育成を目指す。
- 学習過程を工夫し、個に応じためあてをもたせることにより、進んで運動する児童の育成を目指す。
- 健康的な生活習慣を知り、効果的な体育活動への取組を通して、児童が活力のある学校生活をおくれるようにする。

## 1 研究の構想

### (1) 研究のねらい

本校では、「ゆたかな子 かしこく なかよく たくましく」を学校教育目標に掲げ教育活動に取り組んでいる。この学校教育目標の具現化に向け、体育の授業や特別活動との連携を図りながら、以下のような児童の育成を目指し体育科の研究に取り組んできた。

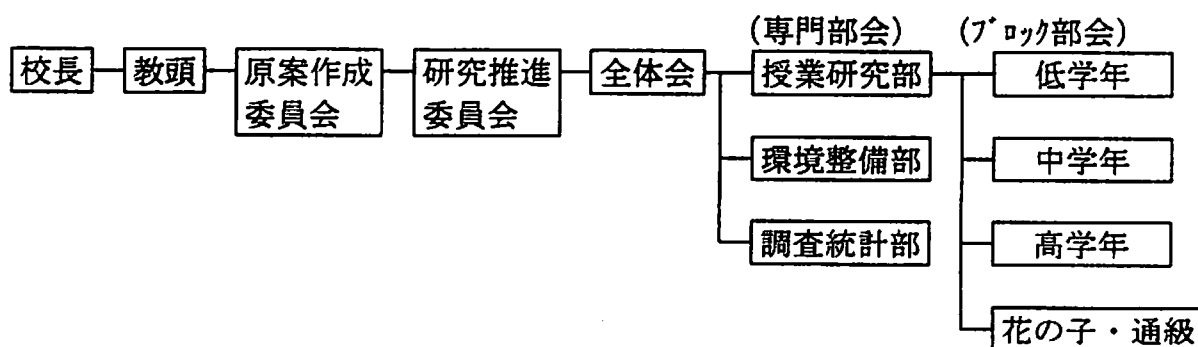
- ・仲間とともに学び合い、高め合うことができる児童
- ・めあてに向かって、進んで運動することができる児童
- ・活力のある学校生活をおくることができる児童

### (2) 研究主題設定理由

本校の児童は、明るく素直で落ち着きがあり、全体的に学力が高いが、運動や遊びの経験が不足している。新体力テストにおいて県平均値を下回る項目が多い。また、人間関係の希薄化、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力が十分に育成されていない状況など、社会的な背景の多くが本校でも課題になっている。

そこで、「心身ともにたくましい児童の育成」～仲間とともに運動する喜びを味わえる体育活動の研究～を研究主題に掲げ、体育科の授業の工夫・改善、効果的な体育的活動の研究に取り組むことにした。

### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

### (1) 研究仮説

仮説1：子ども同士の関わり合いを工夫することにより、仲間とともに学び合い、高め合う児童が育つであろう。

仮説2：学習過程を工夫し、個に応じためあてをもたせることにより、進んで運動する児童が育つであろう。

仮説3：健康的な生活習慣を知り、効果的な体育的活動への取組を通して、児童は活力のある学校生活をおくることができるであろう。

## (2) 具体的な手立て

それぞれの仮説の検証については、授業実践の中で手立てを講じていくことが多いが、本校の現状、児童の実態を考慮すると、体育科の授業の中だけ研究主題に迫ることが非常に難しいことから、研究仮説1、2においては体育の授業実践を通した主にブロック部による検証、研究仮説3においては学校生活全体を通した専門部による検証および取組によって進めていくこととした。

### ① 研究仮説1に関わって（主にブロック部による検証）

「仲間とともに」という副題にも掲げ、特に本校では力を入れるようにした。

#### ア 児童同士が関わる場面の確保

- ・ チーム内での課題確認
- ・ ペア学習の推進
- ・ 器械運動でのペア学習および集団演技の導入
- ・ 意図的なグルーピング
- ・ 相互評価の積極的な導入

#### イ チームに対する意識の向上

- ・ チーム独自のアクション
- ・ チームワーク賞の設定
- ・ ゲーム前のチームでのかけ声

#### ウ 言葉かけの例示

- ・ アドバイスカードの作成
- ・ 励ましの言葉の掲示

#### エ 目指す児童の姿の共通理解

- ・ 本校独自の「子ども同士の関わり合い」における目指す児童の姿を作成



### ② 研究仮説2に関わって（主にブロック部による検証）

#### ア 学習過程の工夫

- ・ オリエンテーションの充実
- ・ 器械運動におけるスモールステップの導入
- ・ 学習の効果を確かめ合う「大会」や「発表会」の実施
- ・ ボール運動におけるドリル練習の導入

#### イ 個に応じためあてをもたせるための工夫

- ・ 学習カードの工夫
- ・ 個々の課題に応じた多様な学習の場づくり
- ・ 「習得」や「基礎感覚づくり」の時間の確保
- ・ 正しく運動をさせるための掲示物の整備
- ・ 個の課題に応じた練習のメニューの提示



③ 研究仮説3に関わって（主に専門部による検証）

ア 授業研究部

- ・ 本校における体育科の授業の進め方マニュアルの作成
- ・ 自分の成長や体力の向上を6年間通して記録することができる「すくすくノート」（体育ノート）の作成
- ・ 「なわとびチャレンジカード」「鉄棒チャレンジカード」の作成
- ・ 短なわとび大会の新設
- ・ 外部指導者による授業（サッカー教室）の推進
- ・ 新学習指導要領に基づいた年間指導計画の見直し

イ 環境整備部

- ・ ロケット投げの設置
- ・ ペットボトルジャンプの設置
- ・ ケンパーコーナーの整備
- ・ 学習ボードの作成
- ・ 跳び箱へのペインティング
- ・ 特別活動との連携



（体育的行事の見直し、縦割り活動の回数を増加、全校遠足の見直し）

ウ 調査統計部

- ・ アンケート調査をもとにした児童の実態把握
- ・ 新体力テストの分析
- ・ 研究における児童の変容及び追跡調査
- ・ 健康的な生活習慣を児童に伝えていく活動の実施  
（養護教諭による全校朝会、  
養護教諭を生かした保健学習の実施）



3 実践事例

(1) 6月22日（月）第2校時



低学年ブロック部授業研究会

授業者 1年梅組 須永 瑞恵教諭

単元名 多様な動きを作る運動（遊び）

指導者 川越市教育委員会教育総務部生涯学習課

指導主事

新家子 直之 先生

(2) 6月22日（月）第3校時 中学年ブロック部授業研究会

授業者 3年竹組 岩澤 正樹教諭

単元名 「鉄棒」（鉄棒運動）

指導者 川越市教育委員会教育総務部市民スポーツ課

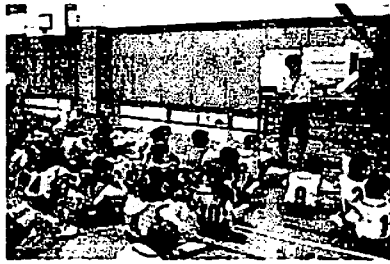
指導主事

西貝 俊哉 先生

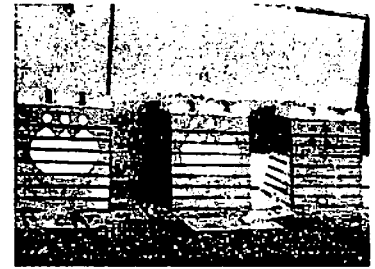


(3) 6月22日（月）第5校時 高学年ブロック部授業研究会

授業者 5年松組 櫻井政徳教諭



単元名 「バスケットボール」(ボール運動)  
指導者 川越市教育委員会学校教育部教育研究所  
指導主事  
斉藤 伸之 先生



(4) 夏季休業中の職員作業  
跳び箱・なわとび台へのペインティング等

(5) 10月20日(火) 研究発表会

低学年ブロック部授業者 2年梅組 山口 隆司教諭  
指導者 川越市教育委員会教育総務部生涯学習課 指導主事  
新家子 直之 先生

中学年ブロック部授業者 4年松組 高桑 明 教諭  
指導者 川越市教育委員会教育総務部市民スポーツ課 指導主事  
西貝 俊哉 先生

高学年ブロック部授業者 6年松組 栗田 大悟教諭  
指導者 川越市教育委員会学校教育部教育研究所 指導主事  
斉藤 伸之 先生

(6) 11月20日(金) 第2校時 花の子学級授業研究会

授業者 原 功 教諭 奈良 方子教諭  
落合 静香教諭 保戸塚芳正教諭

単元名 「サーキットをしよう」

指導者 川越市教育委員会学校教育部教育研究所 副所長  
浅見 由利子 先生



#### 4 研究の成果と課題

##### (1) 成果

- ・教師自身が常に仲間との関わり合いを意識した授業を進めてくようになり、児童同士の励ましの言葉が多くなった。
- ・学習過程を工夫していったことで、児童が意欲的・継続的に運動に取り組むことができるようになった。
- ・縦割り活動において、異年齢集団の中で楽しみながら運動する姿が多く見られるようになった。
- ・教師間において、体育科の授業の進め方の共通理解を図り、教材研究を深めていったことで、教師一人一人が自信を持って授業に取り組むことができるようになった。

##### (2) 課題

- ・児童の意欲をより高めていくために、より一層の教材開発や学習過程の工夫を進めていく必要がある。
- ・児童の力を確実に伸ばしていくために、教師の指導方法や評価の在り方について研究をさらに深めていく。
- ・学校だけでなく家庭にも啓発を図り、日常生活の中で運動する機会を増やし、体力の向上に努めていく必要がある。

## 「算数大好き！仙波っ子」の育成 ～ 学び合いを中心にした指導法の工夫改善 ～

川越市立仙波小学校

### 研究のポイント

- ◎授業における児童相互の学び合いを通して基礎・基本の確実な定着を図り、学び方を学び、学んだことを活かして課題解決できる児童を育成する。
- 自らの考えを伝え合う活動を通して、コミュニケーション能力を高め自己の存在感と自尊心の向上を図る。

### 1 研究の概要

#### (1) 研究のねらい

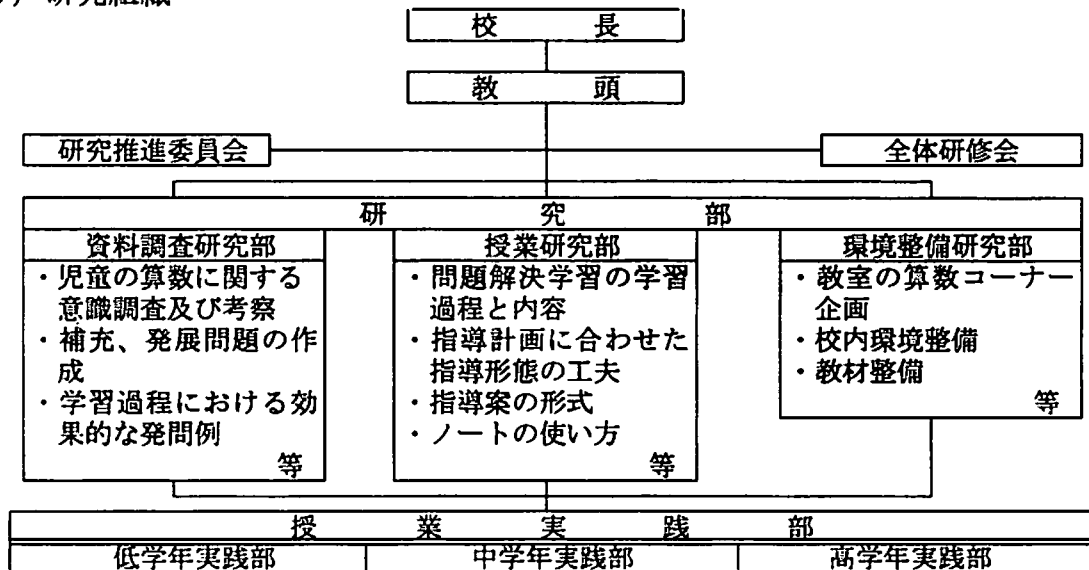
全員参加の話し合いによる学び合いを活性化していくことにより、意欲的に学習に取り組める児童を育成する。

#### (2) 研究主題設定の理由

算数科の教科目標は、「数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。」である。この目標を達成するために、本校では、問題解決的な授業実践を中心に行っている。問題解決的な学習過程は、問題をつかみ、自力解決後、全体で練り上げを行い、まとめていくという流れである。ただ、練り上げ段階では、ややもすると、発表者の話を聞くだけで、話し合いに参加できない児童も多かった。

そこで、本校の研究では学習の過程の様々な場面で、となりの人や3～4人のグループあるいは学級全体で話し合う機会を意図的に取り入れていく。友達と考えを交流することにより、友達の良さを発見したり、自らの良さに気付いたり、それらを通して自らの考えを再構築しつつ、さらには友達と協同的に新たなものを生み出していく事ができるからである。このような学び合いを通して、算数好きな子が育成できると共に、コミュニケーション能力も育成できるものと考えている。そしてそのことが算数の時間に限らず児童の存在感と自尊心の向上につながり「算数大好き」から「友達大好き」、「学校大好き」さらには、「生きるの大好き」と実感できる児童の育成につながると考え本主題を設定した。

#### (3) 研究組織





## 2 研究内容

### (1) 授業研究部

#### ① 問題解決学習の学習過程と内容

基本的には「つかむ→見通す→解く→話し合う→まとめる」の学習過程で行う。

- ・つかむ……問題・課題（本時の問題場面や課題ををつかむ）
- ・見通す……既習事項をもとに、解決の計画を立てる・答えの見積もりをする
- ・解く……解決の計画をもとに、自力で問題解決をする
- ・話し合う…自分の解決方法を分かりやすく説明する  
友達の解決方法を自分の考えと比べながら聞く  
よりよい解決方法を見つける
- ・まとめる…本時の学習のまとめをする・適用問題を解く

#### ② 練り上げの視点の明確化

児童の話し合いを深め、学び合いを充実させるために、「練り上げの視点」を明確にした。

- ・ その方法のよいところは？
- ・ 自分の考えと似ているところ、違うところは？
- ・ 手早く簡単にできる方法は？
- ・ 自分も使ってみたい方法は？
- ・ 正確にできる方法は？
- ・ いつでも使える方法は？（どこでも、どんなときでも、どんな問題でも）

#### ③ ノートの使い方

日付	2センチくらいのところに線を引く					
	低 学 年		中 学 年		高 学 年	
P	→	ページ数				
も	→	もんだい	問	題	問	題
か	→	かだ	課	題	課	題
考	→	考え	作	戦	見	通
と	→	と	解	く	解	す
(話し合う)	→					
ま	→	ま	ま	ま	ま	ま
(適用問題)	→	と	と	と	と	と
		め	め	め	め	め

※ ていねいに書かせる。(ノートは参考書という意識付けを)  
 ※ 誤字以外は消さない。(計算等の振り返りができる)  
 ※ 線は定規を使って引く。(定規の扱いに慣れさせる)

#### ④ 考えを伝え合う場の設定



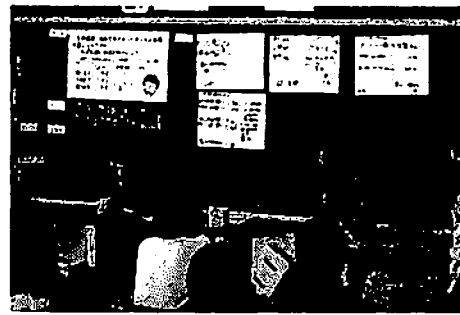
となりどうして



グループ内で



解決できた子どもで（自由に）

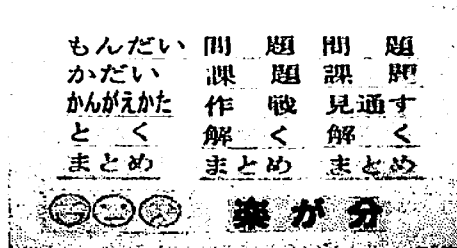


全体で

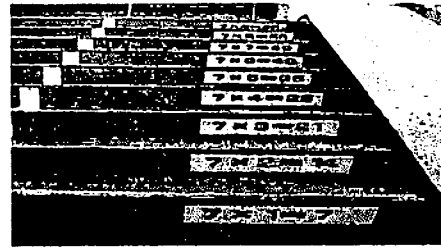
(2) 環境整備部

① 学び合いを支える学習環境の整備

- ・ どのクラスも同じように学習を進められるように、「学習の進め方のプレート」を作成した。
- ・ 「チーターの走る速さ」や「キリンの背の高さ」、「ゾウの足の大きさ」など、量感を体感できる掲示物を作成した。
- ・ 階段を上りながら、九九を自然に覚えられるように、「かけ算九九の階段」を設置した。



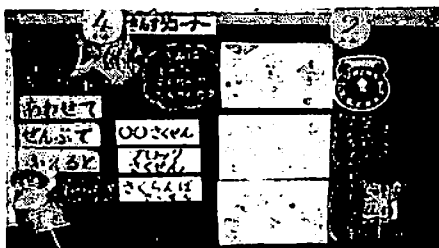
学習の進め方



かけ算九九の階段

② 算数コーナーの設置

- ・ 前時までの学習内容を把握し、本時の学習にいかしていけるように、「算数コーナー」に、学習のポイントを示した。
- ・ 算数科に対する意欲を喚起するために、視覚的に見やすく親しみやすいものにした。



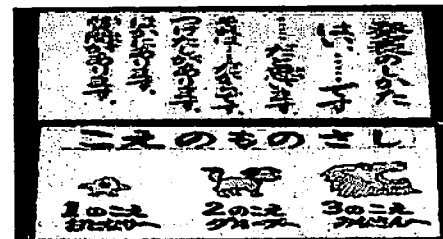
低学年



中学年



高学年

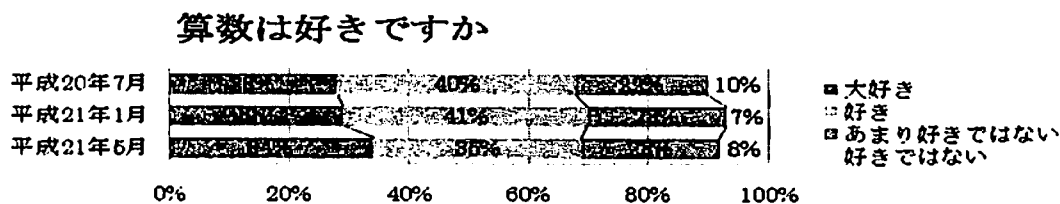


発表の仕方

### (3) 資料調査部

#### ① アンケートによる実態把握

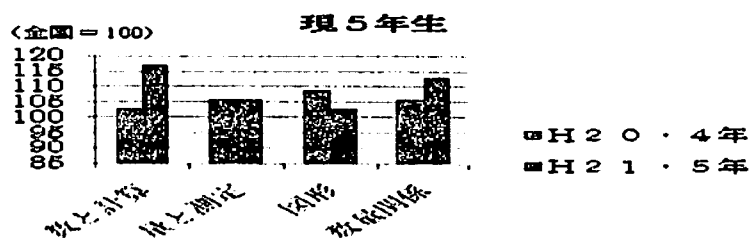
- ・ 児童一人一人の実態を把握し、個に応じた適切な指導を行うために、算数科における情意面でのアンケート実施した。アンケートは、2回実施し、児童の変容を検証した。「算数は好きですか」という問いに対し、「大好き」の割合が増えている。



#### ② 標準学力テスト (NRT)、入間地区学力調査結果の分析

平均を下回っている領域については、以下のような指導の手立ての検討を行った。

- ・ 算数的活動を通して、理解を確かなものにしていく。
- ・ 系統性を明確にし、段階的な指導を通して、定着を図っていく。
- ・ 少人数指導等、学習形態や指導方法を工夫することにより、個に応じた指導を一層充実させる。



教研式全国標準学力調査 (NRT) より

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 話し合いの約束・発表の仕方を学校全体で統一し、教師が練り上げの構想をもって話し合いを進めたことにより、児童の話し合いが充実してきた。
- ・ 個に応じた指導や支援を行ったり、単元の基礎・基本を踏まえた指導を行ったりしたことにより、児童に基礎的・基本的な学習内容の定着が見られた。
- ・ 系統性を意識した指導を続けたことにより、児童が既習事項を活用して意欲的に自力解決に取り組めるようになってきた。
- ・ 学習を振り返る場を設定することにより、分かったことや感想等を自分の言葉で表現できるようになってきた。
- ・ 継続的な研修を通して教師の指導力向上に伴って、児童の算数科における学力の向上も図られた。
- ・ 授業の中で、意図的計画的に友達同士で交流する時間を設定したことにより、友達の多様な考え方にふれ、自分の考えを広げたり深めたりするなど、豊かな関わり合いができるようになってきた。

#### (2) 課題

- ・ 話し合いの活性化はまだ不十分である。児童相互の話し合いにより、学習を創造できるような指導の在り方をさらに追究していく。
- ・ 基礎的・基本的な学習内容の定着のために、さまざまな指導形態におけるより効果的な指導方法の工夫改善を図っていく。
- ・ 算数的活動を指導計画に組み入れていく。

## 研究主題

### コミュニケーション能力を育む授業の創造

学校名 川越市立霞ヶ関北小学校

- 算数科におけるコミュニケーション能力を「数学的内容を自己表現する力」と「数学的内容について、他者とかかわり合いながら自分たちの考えをつくっていく力」の両面からとらえ、相互に関連するものとした。
- 全校で一貫して問題解決的な学習を推進し、日々の授業の中で様々な手だてを考案し実践した。

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

算数科の授業を通し、自ら課題をもち、考え、友達との豊かな関わり合いを通して問題解決していく児童の育成

### (2) 研究主題の設定理由

新学習指導要領では、算数科の教科の目標に「表現する能力」の文言が新たに加えられ、算数科の学習を通しての思考力・判断力・表現力の育成が重要な課題となっている。また、本校児童の実態として、学力調査等の各項目で平均を上回るなど基礎学力の定着が図られてきているが、発表に自信がない児童も見られることより、本研究主題を設定した。

### (3) 目指す児童像

【低学年】意欲をもち、友達との話し合いを通して、問題解決していく児童

【中学年】自ら課題をもち、考え、友達とのかかわり合いを通して問題解決していく児童

【高学年】友達との豊かなかかわり合いを通して問題解決していく児童

## 2 研究の内容

### (1) 研究仮説

「問題解決的な学習を進め、子どもが学び合う場を工夫すれば、コミュニケーション能力が育つであろう。」

### (2) 手だて

#### ① 少人数指導による学習形態の工夫

- ア 習熟の程度に応じたコースの設定  
(興味関心・コミュニケーション能力を加味して)
- イ 話し合いの仕方の工夫
- ウ 学習ルール(発表の仕方、話の聞き方)
- エ 練り上げシートによる計画的な練り上げ

② 教育機器の活用

③ 自分の考えの表現の仕方

- ア 問題解決的な学習の流れをつかむワークシートの活用
- イ 「〇〇さくせん」などのネーミング
- ウ 既習事項を生かす算数コーナー
- エ 自力解決の時間の確保
- オ 数直線などの利用

(3) 研究の経過

① 平成20年度

ア 研究授業

問題解決的な学習のよさ並びに進め方の理解をすることを目標に研究が進められた。研究授業を重ねる毎に、意欲が持てるような問題の工夫、課題の言葉の重要性、算数的活動の重要性、練り上げの言葉の重要性など、問題解決的な学習の過程に沿って研究が深まっていった。

- 2年「長さの単位」(6/30) ○ 4年「折れ線グラフ」(7/4)
- 6年「分数のかけ算とわり算」(9/25)
- 1年「くりあがりのあるたし算」(10/26) ○ 3年「かけ算の筆算(1)」(10/29)
- 5年「比べ方を考えよう」(2/5)

イ 全体研修会

- ・学習指導要領の学習会(5/12,7/28,9/11) ・「練り上げ」の仕方の実習(10/8)

ウ 講演会

- ・埼玉大学教授 金本良通先生「算数科におけるコミュニケーション能力」(8/12)
- ・川越市立川越西小学校長 大谷一義先生「算数科における問題解決的な学習」(8/29)

② 平成21年度

ア 研究授業

教材研究を深め、引き続き問題解決的な学習を積極的に取り入れていくこととともに、前年度からの課題である「練り上げ」の場の充実を図ることを目標に研究が進められた。前年度の研究の上に立つために4・5月は、問題解決的な学習の強化月間として、互いの授業を見合いながら教師全員が問題解決的な授業を行った。

研究授業の際には、研究の視点を明らかにするとともに、授業研究部が作成した「子どもたちに身に付けさせたいコミュニケーション能力」の一覧表を添え、その中のどの部分を評価するか明確にした。研究協議の際は、二年間を通してワークショップ型の協議を行い、教師自身もコミュニケーション能力を身に付けていくことができた。

今年度は、研究授業を通し、「学び合う場」の工夫も明らかになり、研究仮説に迫ることができた。特に効果的であったのは、①教育機器の活用 ②コミュニケ

ーション能力も加味したコース設定 ③話し合いの形態の工夫 ④練り上げシート並びに練り上げの観点カードの使用の4点があげられる。

- 4年「かけ算の筆算」(5/21)
- 5年「合同」(7/2)
- 2年「かけ算(1)」(10/1)
- 6年「算数卒業旅行」(10/5)
- 3年「わり算(1)」(10/30)
- 1年「どちらがおおい」(11/5)
- 4年「計算のきまり」(12/10)

#### イ 全体研修会

- ・「練り上げ」の仕方(理論と実践)全4回(4/22,6/18,6/25,7/21)

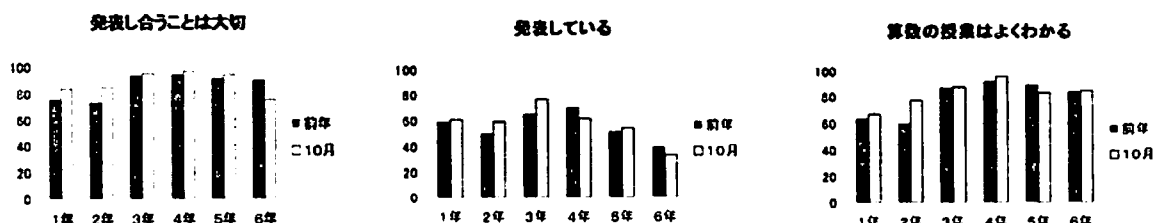
#### ウ 講演会

- ・文教大学教授 町田彰一郎先生 「コミュニケーション能力を育む授業の創造」(8/27)

### (4) 専門部の活動

#### ① 資料調査部の取組

アンケートによる意識調査 ・学力調査の分析と考察を行った。

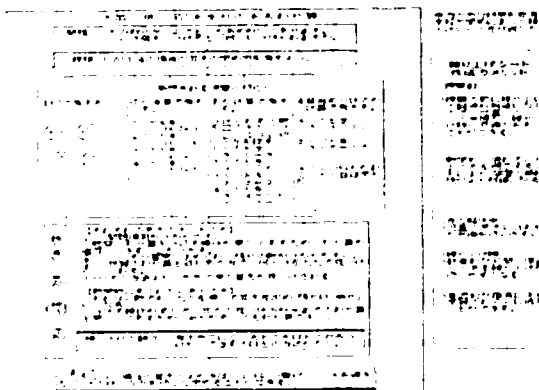


発表を聞いたり、発表をしたりしてお互いに考えを伝えあうことの大切さを感じている児童の割合が増えている。また、学習内容がわかると答えている児童の割合が高くなっている。

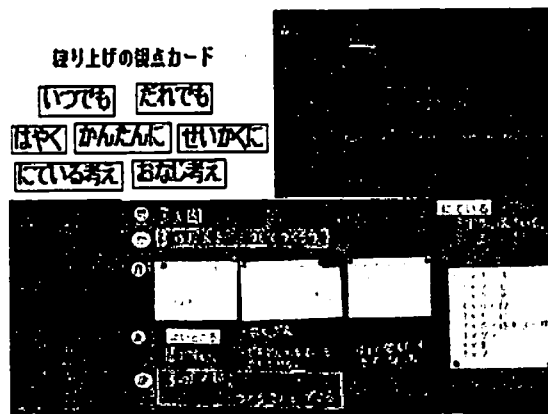
#### ② 教科指導部の取組

##### ア 問題解決的な学習の推進

- ・練り上げシートの作成・活用



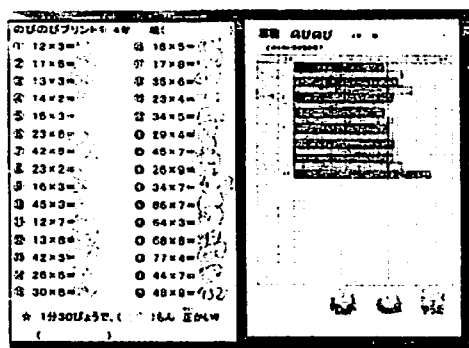
- ・練り上げ観点カードの作成・活用



- イ 基礎的・基本的な知識及び技能の定着
  - ・のびのびプリントの実施
  - ・課題学習タイムの計画的実施
  - ・学習内容をつなぐ数学的な考えの明確化

ウ 学び合う場の工夫

- エ 「子どもたちに身に付けさせたいコミュニケーション能力」の一覧表の作成と活用

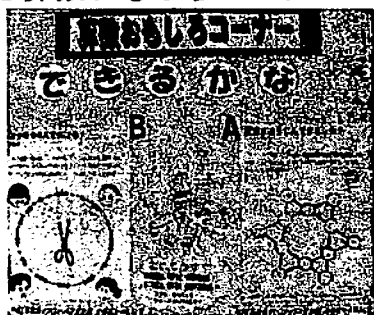


### ③ 環境整備部の取組

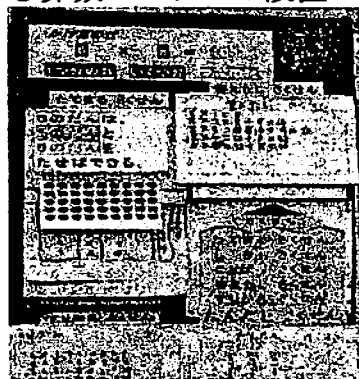
ア 問題解決的な学習を推進し、コミュニケーション能力の育成を図るための環境を整備した。

イ 効果的な掲示物の作成

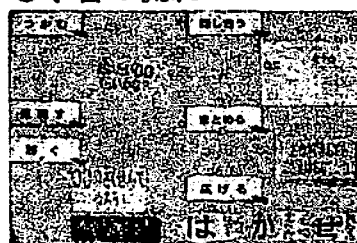
○算数おもしろコーナー



○算数コーナーの設置



○学習の流れ



## 3 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ア 学校全体で一貫して問題解決的な学習に取り組んだことにより、児童の自力解決の意識が高まるとともに、よりよい解決方法を求め児童同士が検討しあう場面が増えてきた。
- イ 練り上げの観点を示すとともに、学習形態の工夫を行うことによって、児童の発言の回数も増え、自信を持って発表できるようになった。
- ウ 教育機器を効果的に使用することによって、児童により分かりやすく教材を提示することができ、学習への関心・意欲を高めることができた。また、「発表の道具」ともなった。
- エ 「〇〇さくせん」と児童の考えた解き方を名付けることによって、解き方に対する共通理解が進み、お互いの考えが伝えやすくなった。

### (2) 課題

- ア 児童の意欲的な学習態度を高める少人数の指導のあり方についてさらに研究を続けていきたい。
- イ 練り上げの過程を重視した算数的活動についての研究を深めていきたい。
- ウ 本研究の成果を他の教科等にも拡大し、すべての教育活動においてコミュニケーション能力の育成を一層推進していきたい。

「活力ある学校づくり」  
笑顔あふれる南古谷中学校生徒の育成を目指して

川越市立南古谷中学校

研究のポイント ○

- 学年会議に重点を置いた、学年・学級経営の工夫・研究
- 生徒の笑顔を指標に、学年全体・学校全体で取り組む行事や授業の工夫・研究
- 保護者や地域の人々や組織との連携を強化し、南古谷ならではの行事や活動の創造・工夫

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

2年間の研究を通じて、1年次と2年次の主題を、以下のように設定した。

- 学年や学級が独自性を発揮しやすくするため、話し合いが充実できる学年会議の設定 (20年度)
- 笑顔あふれる南中っ子(南古谷中学生徒)の育成を目指して (21年度)

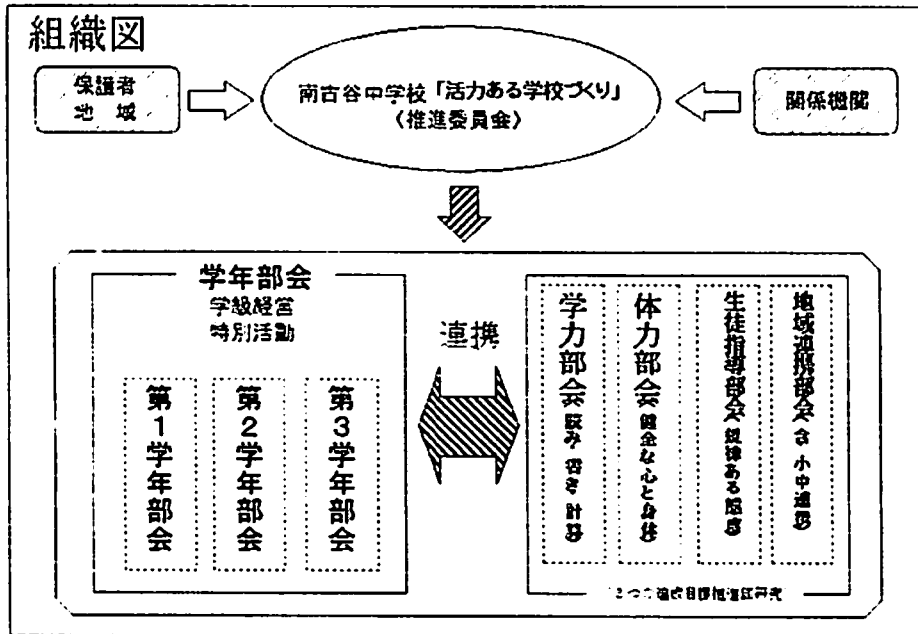
(2) 研究主題設定の理由

本校では、数年来の生徒指導上の課題が減少傾向を示し、授業や学校行事に、どのクラスも穏やかに取り組める状況となってきた。また、生徒が意欲的な活動を展開し、保護者や地域の方々から学校教育に対して理解や支援を得られるところともなりつつあった。このような背景変化を踏まえたときに、学校での指導の最小単位である学級経営の重要性や、そのための学年経営や各分掌組織の活性化が大変重要な要素であると考えた。これらから、本校では、学年・学級経営の活性化を進め、心の教育や体験的・啓発的経験を通して、子どもたちに自信や成就感・達成感を体験させることによって、より主体的に活動する生徒を育成することができると考え、研究を推進してきた。折しも、平成20年3月には新学習指導要領が告示され、問題解決能力・思いやりの心や健康・体力といった、子どもたちが将来にわたり社会で生き抜くための「生きる力」を育成することが改めて求められており、また、平成21年度の「生きる力を育て絆を深める埼玉教育」では、学校において「教師と生徒が深い信頼関係を構築し、学校・家庭・地域が連携・協力していくこと」が大切であり、「小中の連携を踏まえた義務教育を通して豊かな人間関係を深め、広げることが重要である」としている。このことから、学年・学級経営の活性化と地域連携の推進を通して「誰にでも誇れる生徒・学校・地域」「笑顔や笑い声に満ちた学校」を創造し、南中っ子(南古谷中学生徒)の育成を推進することが、「活力ある学校づくり」になると考え本研究の主題とした。



(3) 研究組織

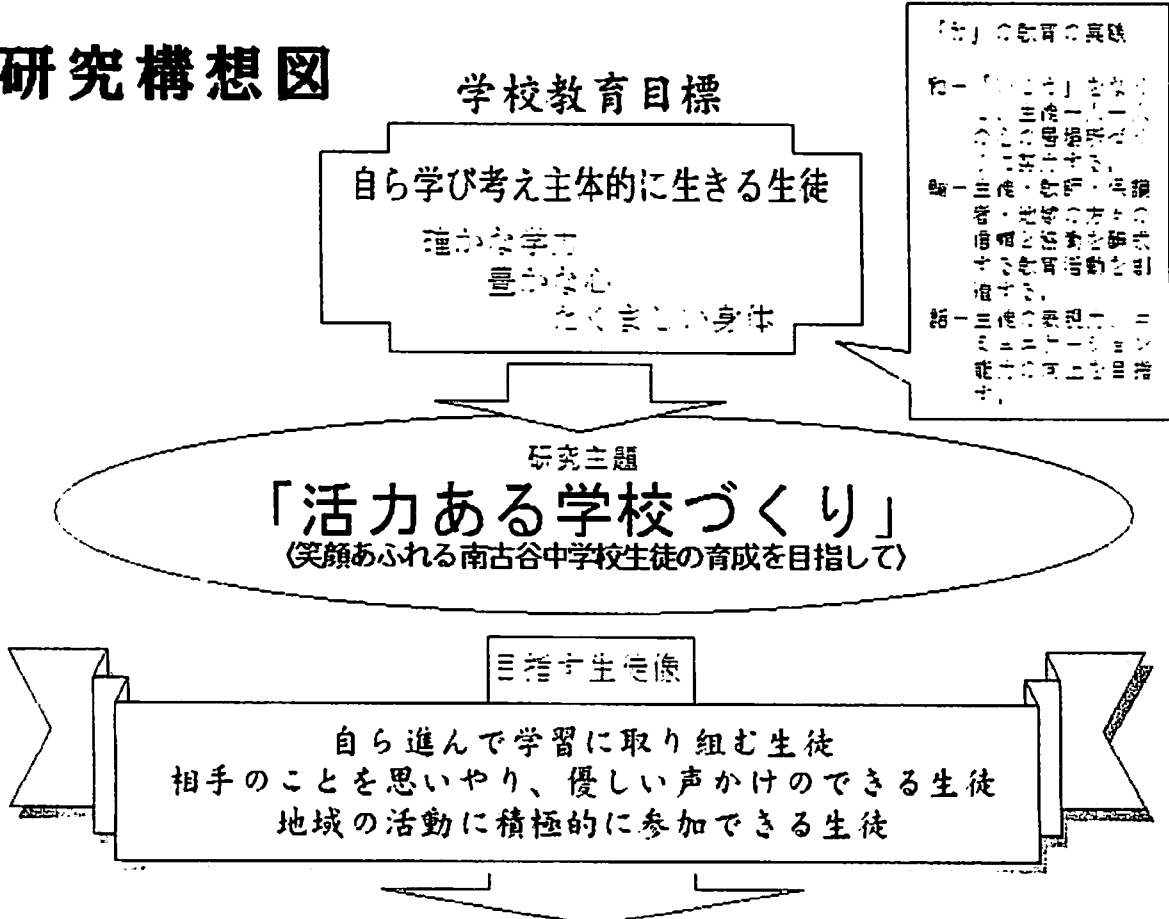
研究を進めるにあたり、組織的・継続的で有機的に機能する組織づくりが大切であると考え、既存の組織を有効活用して、下図のように構成・組織した。



2 研究の内容

研究全体の構想を以下のようにとらえ、仮説に対する手立てに従い、実践に取り組んだ。

研究構想図



## 研究仮説

- 1 教師が特別活動を中核に据えた学級経営・学年経営を計画的、継続的に推進し、生徒に積極的に関わることで、生徒が主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われるであろう。
- 2 生徒が主役になれる場面を増やし、学校行事等の活動を充実させることで、生徒の主体性を伸長させることができるようになるであろう。

## 手立て

### 《仮説1》に関わって

- (1) 生徒のコミュニケーション能力を高めるための、教師の研修を充実させる。
- (2) 生徒相互の人間関係が円滑になるよう、特別活動を充実させる。
- (3) 生徒が主体性を持って学習に取り組むことができるよう、教師が情報を共有し個に応じた指導・支援を工夫する。

### 《仮説2》に関わって

- (1) 生徒が集団の一員としての自覚を持ち、一人一人のよさを発揮できるよう生徒会の組織を生かした自主的・実践的な活動を行う。
- (2) 生徒が広い視野を持ち、様々な体験ができるよう、保護者・地域との連携を図った行事を行う。

## 3 実践事例

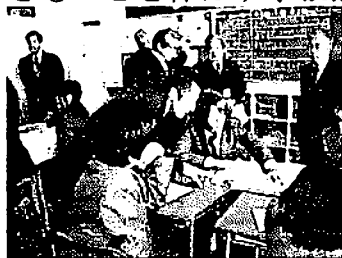
### 仮説1手立て(1)について

- 職員研修(グループエンカウンター) ○小中合同全員研修会



### 仮説1手立て(2)について

- 子どもの心を伸ばす学級活動



(発表会当日から)

- 学級の団結、大縄飛び

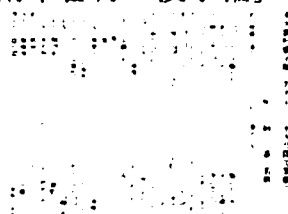


### 仮説1手立て(3)について

- 学習指導法の改善・充実



- 南中番付「漢字編」



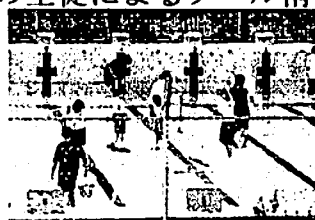
(個に応じた指導・少人数指導・TT)(教育に関する3つの達成目標)

仮説2手立て(1)について

○生徒が主体的に取り組む  
生徒総会



○体育委員会とボランティア参加  
の生徒によるプール清掃



仮説2手立て(2)について

○PTAとの連携



(流しソー麵)

○地域との連携



(南古谷子ども文化祭)

○地域人材活用



(南中ふれあいタイム)

○学校農園の実施



(小豆の栽培)



(学校農園の稲刈り)

#### 4 研究の成果と課題

##### (1) 成果

- ① 教師が生徒のコミュニケーション能力を高める研修を積むことで、生徒理解が深まり、教師と生徒・生徒相互のよりよい人間関係を醸成することができたこと。
- ② 教師が個に応じた指導の工夫・改善を図ることで、生徒が意欲的に授業に取り組むことができたこと。
- ③ 目的にねらいを明確にした行事を意図的・計画的に年間計画に位置づけ実践することで、生徒一人一人が自信を持ち、主体的に活動することができたこと。
- ④ 地域への行事参加を促進することで、生徒たちが地域社会の一員であることの自覚と責任を持ち、自信を持って学校生活を送ることができるようになってきていること。

##### (2) 課題

- ① 組織を有機的に機能させ、生徒の主体的なコミュニケーション能力を育てていくためには、教師が子どもの変化に対応し、自信を持って学級経営や学年経営を行うための研修や個に応じた指導の工夫改善をより一層推進していくことが必要である。
- ② 生徒の主体的なコミュニケーション能力を育み活力のある学校を創造するためには、義務教育9年間を見通した生徒の育成を踏まえた指導体制と、保護者・地域・関係機関とのさらなる連携・協力体制が必要である。

## 研究主題

# 「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」

～豊かな心とたくましい体を育む体育指導の工夫～

川越市立川越第一小学校

### 研究のポイント

- 「友達と豊かにかかわり合い、自らの健康・体力に関心を持ち、進んで運動に親しむ子」の育成をめざして
- 友達と豊かにかかわり合い、自らの体力を高めることができるような学習指導を工夫する。
  - 児童の実態を的確に把握し、環境を整備する。
  - 自分の健康や生活について関心を持ち、課題解決できるような健康・食に関する学習指導を工夫する。

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

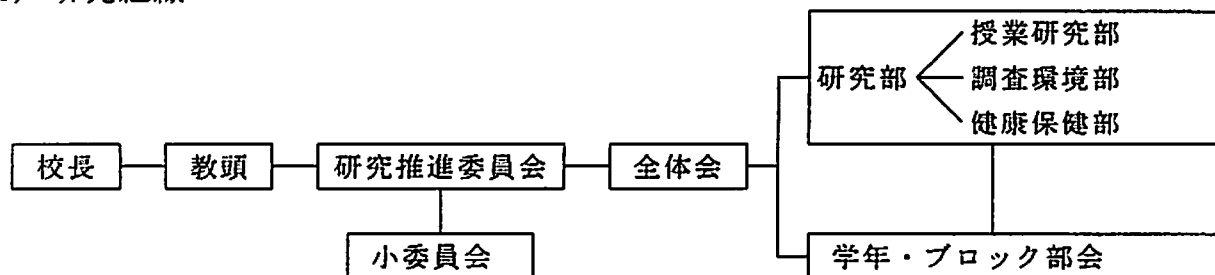
- ① 進んで友達と豊かにかかわり合いながら、自らの体力を高める児童を育てる。
- ② 自分の健康や生活について関心を持ち、課題解決できる児童を育てる。

### (2) 研究主題設定の理由

本校においては、新体力テストの結果によると全体的に県平均を上回る種目が少なく、休み時間に外で元気に遊ぶ児童は高学年にいくほど、限られてきてしまっている。また、学校外での生活になると、スポーツ少年団などに所属している児童は活発に運動に取り組んでいる反面、所属していない児童との運動量の格差はますます大きいという現状がある。さらに食に関しても、夜遅く夕食を食べたり、朝食を抜いて登校する児童がいるなど、食生活の乱れも見受けられる。

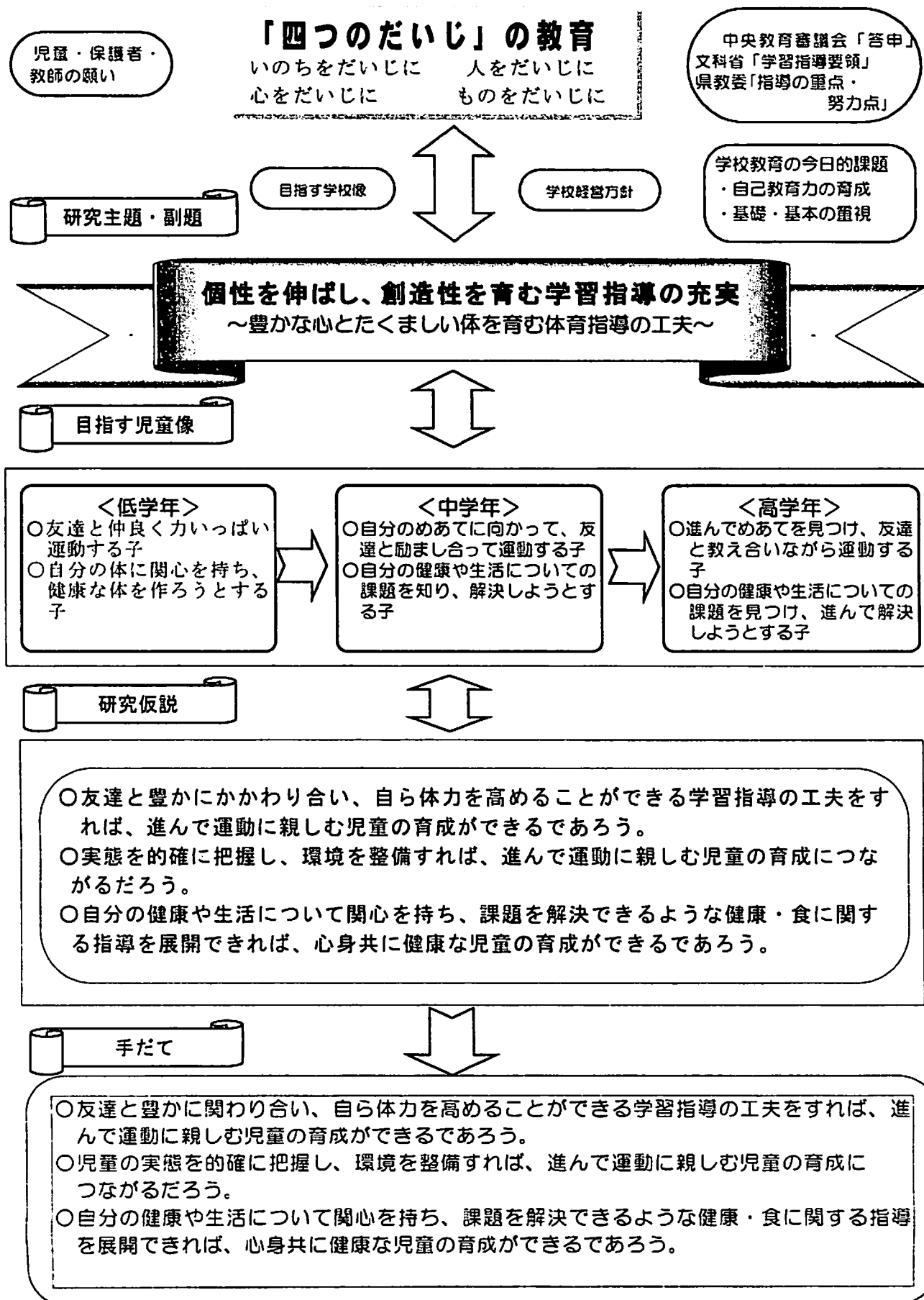
このような実態を踏まえて、学校教育目標である「四つのだいじ（いのちをだいじに、人をだいじに、心をだいじに、ものをだいじに）」の具現化を目指し、研究主題を「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」とし、副題を「豊かな心とたくましい体を育む体育指導の工夫」とし、適切な運動経験と食への理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力・健康への保持増進の基礎を育てるために指導法の工夫改善を図っていくことにした。

### (3) 研究組織



※研修日は、毎週木曜日とする。各組織の活動は年間計画による。また、研修推進委員会・小委員会は、必要に応じて随時行うことができる。

## 2 研究の全体構想



### 3 実践事例

この体育科の研究は本校では3年の期間をかけて取り組む予定であり、今年度はその2年目で、研究委嘱を受けて1年目の年となる。今年度は昨年度の成果と課題を明らかにしながら、理論が実践に生きるようにすることと新学習指導要領の実施に向けて、先行的な授業研究を行った。その中で、実際の授業における指導法の工夫改善に積極的に取り組み、体力の向上を図ることができた。以下がその内容である。

#### (1) 理論研修

- ・講話「新学習指導要領における体育授業のあり方」平成21年5月7日  
川越市教育研究所 河野 哲夫 先生
- ・講話「新学習指導要領における体育授業の基礎基本」平成22年2月15日  
東京学芸大学准教授 鈴木 直樹 先生
- ・体力テストの結果とその分析

#### (2) 授業研究

##### <運動領域 研究仮説>

友達と豊かにかかわり合い、自ら体力を高めることができる学習指導の工夫をすれば、進んで運動に親しむ児童の育成ができるであろう。

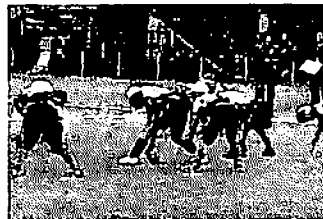
この仮説を立て、低・中・高学年別の目指す児童像を定めるとともに、系統性を明らかにするために昨年度とは違う領域の授業研究に取り組み、仮説の検証を行った。

- 1年・・・10月22日 鬼遊び
- 2年・・・1月28日 体づくり運動
- 3年・・・1月28日 跳び箱運動
- 4年・・・11月5日 フラッグフットボール
- 5年・・・2月4日 跳び箱運動
- 6年・・・11月12日 タグラグビー

どの学年も教材研究を熱心に行い、児童がめあてを持ち、友達とのかかわりの中で技能・思考力を高め、活発に運動する授業展開がなされた。



<1年>



<4年>



<6年>

##### <食育に視点をあてた研究授業および諸活動>

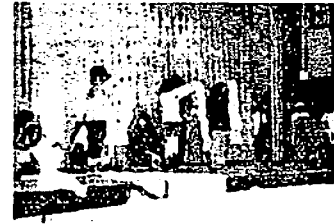
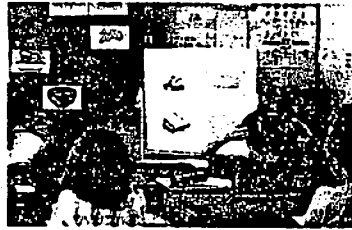
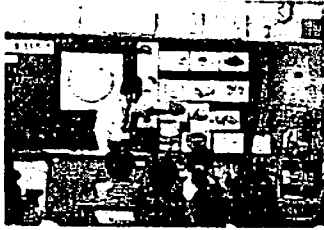
##### <保健領域（特に食育） 研究仮説>

自分の健康や生活について関心を持ち、課題を解決できるような健康・食に関する指導を展開できれば、心身共に健康な児童の育成ができるだろう。

3年・・・10月29日 「1日の生活のしかた」（保健）

昨年度は4年にて「よりよいからだの育ち」（保健）の研究授業を行った。今年度は、食に関する全体計画を再度見直し・改善を図り、年間計画の作成を行った。さらに昨年度は4年生で行った研究授業を今年は3年生で行い、系統を明らかにした。全学年でも食育に視点をあてた授業の展開を実施した。

また児童朝会などにおいても、給食委員会を中心として全児童を対象に、食に関する関心意欲を高め、好き嫌いせずに食べることの重要性を訴えた集会をもった。さらに今年度から「食の大切さ」についての家庭への啓発を図る目的で「食育だより」の発行と「生活チェック表」に取り組んだ。さらに本校の四つのだいじ評価（自己評価および家庭評価）にも項目を加え、家庭への啓発とともにその変化にも着目しながら進めてきた。



< 3年授業 >

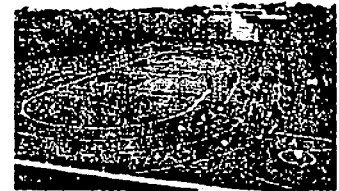
< 委員会による給食集会 >

(3) 生活の中で運動する習慣を身につける教育活動と環境づくり

① 朝の運動場回り

毎週「月・水・金」の朝の時間を活用し、全校で運動場回り（朝マラソン）に取り組んでいる。その内容は、健康観察後、1分間の集団走の後、3分間の自由走となっている。

また、高学年になると自主的に走っている姿を見ることができる。



< 運動場回り >

② 大なわ大会

2月・3月の体育朝会では、全校で大なわ大会を行っている。児童もとても楽しみになっており、休み時間では、校庭にクラスごとの大なわの円ができ、「1・2・3・・・」のかけ声とともに、多くの子が寒さに負けず、外で元気に活動している。

③ 環境作り、教材・教具作り

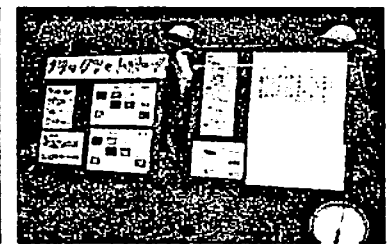
本校の課題である投力（新体力テストから）を高めるために、投げ方を身につけさせるための投力アップコーナーや体のバランス感覚を養うためのケンパーコーナー、授業で活用できるような教材・教具作りを行った。



< 投力アップコーナー >



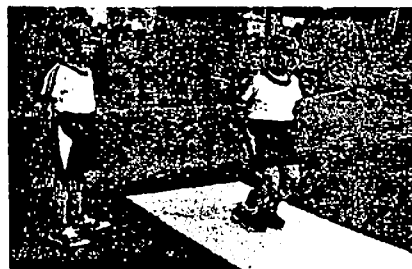
< 体育館・技の掲示物 >



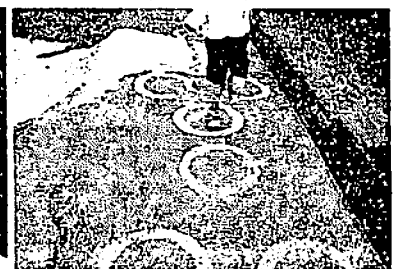
< 学習掲示板 >



< 握力アップコーナー >



< 縄跳び板 >



< ケンパコーナー >

4 成果と課題

- 理論をもとに、授業研究を繰り返し行うことで、授業の質の向上が図られ、児童もめあてを決めて、意欲的に取り組む姿がみられた。
- 全体で同一歩調で取り組むことにより、授業規律が確立され、どのクラスも落ち着いて体育の授業を行えるようになった。
- 研究授業を計画的に意図的に、学年別・系統別に行うことで教師がより一層教材についての理解を深め、体育の授業改善につながった。
- △食育では食育だよりによって、家庭との連携を深めることができた。さらに食の大切さを十分に理解させ、実行に移せる児童を育てていくために家庭との連携が必要がある。

# 主体的に「生きる力」を身に付ける児童の育成

— 思考力を高めるためのコミュニケーション能力の育成をめざして —

川越市立月越小学校

## — 研究のポイント —

- 音楽、図工、体育の3教科において、コミュニケーション能力を活用した授業改善を図る。
- 研究の柱である「指導」「場」「評価」について、3教科の学習の流れに沿った具体的な手だてを明確にする。
- 単元構想図を活用して、学習内容の系統性や指導のポイントを明確にし、学習指導に役立てる。
- 学習に意欲的に取り組めるように学習の規律を共通理解し、基本的な生活習慣の定着を図る。

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

- ①思考力を高める指導方法を明確にすることによって、児童の活動に広がりや深まりをもたせる。
- ②学習の中で思考力を高めるためのコミュニケーションの場を設ける。
- ③思考力の高まりを評価し、指導に生かす。
- ④学習の規律や生活のきまりを見直し、学習や生活の充実を図る。

### (2) 研究主題設定理由

本校の児童は、素直で元気がよいが、生活全般で考え方や物事のとらえ方に消極的な部分がある。また、アンケート調査などによると、学習を主体的に進めたり自分の思いや考えを表現したりすることを苦手とする児童も見られた。特に、自分の考えを振り返ったり、友達の話聞いて自分の考えを広めたり深めたりせずに、安易に結論を出したがる傾向があった。学習の中で、しっかりと話を聞き、じっくりと自分の考えを練り上げる場が必要と考えた。その場がコミュニケーションの場であると考えた。

そこで、平成19年度から、コミュニケーション能力を「会話する力」だけでなく「自らの考えを高めていく力」ととらえ、学習指導の中で、①課題に対して解決の方法など自分の考えをもつことができるようにすること。さらに、②人との交流によって自分の考えをよりよいものにしていく力を身に付けさせることをねらいとした授業展開を図ること。また、③基本的な生活習慣を身に付けることによって、学習や生活に意欲がもてるようにすること等、学習過程での意欲をもった学び合い、教え合いを大切にした授業を確立するために本主題を設定した。



＜学校教育目標＞  
**チャレンジ精神を持ち、たくましく生きる児童（月越っ子）の育成**  
 自ら学び 明るく 生きぬく子  
 ○自ら学び （よく学び自主的・主体的に考える子）  
 ○明るく （みんなと仲良く、思いやりのある子）  
 ○生きぬく子 （健康でたくましい子）

＜保護者の願い＞  
 ・自分の思いや考えをはっきり言える子に育ってほしい  
 ・自らの学びや考えを表現できる子に育ってほしい  
 ・自ら学ぶ力をつけてほしい

＜児童の実態＞  
 ・活動的で多様な活動が得意な児童が多い  
 ・好奇心旺盛で、物事に没頭する児童が多い  
 ・人への関心が高く、人に頼りやすい児童が多い  
 ・基礎的な学習態度が整っていない児童もいる

＜教師の願い＞  
 ・児童の個性や能力を伸ばし、たくましく生きる児童の育成に貢献したい  
 ・児童の学びや考えを表現できる子に育ってほしい  
 ・児童の学びや考えを表現できる子に育ってほしい  
 ・児童の学びや考えを表現できる子に育ってほしい

＜研究主題＞  
**主体的に「生きる力」を身に付ける児童の育成**  
 - 思考力を高めるためのコミュニケーション能力の育成をめざして -

＜目指す児童像＞  
 ○自ら進んで学習に取り組む児童  
 ○自分の考えを表現できる児童  
 ○互いに認め合える児童

＜学習の規律＞  
 ・学習の準備  
 ・あいさつ  
 ・発表の大きさ  
 ・発言の大きさ

**各教科の内容**

＜生活の規律＞  
 ・あいさつ  
 ・服装（帽子・名札）  
 ・朝食  
 ・歯磨き  
 ・睡眠

研究の柱（指導）  
 ◎ 思考力を伸ばすための個に応じた指導の工夫

＜手だて＞  
 ■ 豊かな発想を生み出す導入の工夫  
 ① 感性を揺さぶるような導入  
 ② 豊かな発想を生み出す導入  
 ③ 自分の課題をもつ  
 ■ 個の考えを引き出す指導の工夫  
 ① 自分の考えをもって表現  
 ② 思いを表現できる手立て  
 ③ 解決の手立ての工夫  
 ■ 個の考えを広めたり深めたりする指導の工夫  
 ① 自分の考えを広めたり深めたりしながら表現  
 ② 考えを広め深める指導  
 ③ 考えや動きを広め深める  
 ■ 自分の考えをまとめる指導の工夫  
 ① 表現の高まりを実感  
 ② 作品の良さを味わう  
 ③ 知識・技能の定着

研究の柱（場）  
 ◎ コミュニケーション能力の活用を図る場の工夫

＜手だて＞  
 ■ 豊かな発想を生み出す場の工夫  
 ① 学習のめあてや自分の思いをとらえる場  
 ② 豊かな発想を生み出す場  
 ③ 自分のめあてや課題をもつ場  
 ■ 個の考えを引き出す場の工夫  
 ① 表現の仕方を見いだす場  
 ② 思いを表現できる場  
 ③ 教え合い学び合う場  
 ■ 個の考えを広めたり深めたりする場の工夫  
 ① さらに表現を追求していく場  
 ② 考えを広め深める場  
 ③ 動きを広め深める場  
 ■ 知識の定着を図る場の工夫  
 ① 自分の思いや意図をもって表現  
 ② 考えをまとめる場  
 ③ 考えや動きを繰り返す場

研究の柱（評価）  
 ◎ 思考力の評価

＜手だて＞  
 ■ 豊かな発想をしてきたかを見取る評価の工夫  
 ① 音楽的な感受を見取る  
 ② 豊かな発想をしてきたか  
 ③ 課題やめあてをもちたか  
 ■ 自分の考えをもちたかを見取る評価の工夫  
 ① 自分の考えをもって表現しているかを見取る  
 ② 豊かな発想をしてきたか  
 ③ 解決の方法を考えたか  
 ■ 自分の考えを広めたり深めたりすることができたかを見取る工夫  
 ① 表現の仕方を工夫しているかを見取る  
 ② 思いを表現していたか  
 ③ 考えや動きを広め深めたか  
 ■ 自分の考えをまとめることができたかを見取る評価の工夫  
 ① 音楽を味わったりすることができたかを見取る  
 ② 作品の良さを認められたか  
 ③ 考えや動きを振り返れたか

### 3 実践事例

#### (1) 授業実践

平成21年5月21日(木) 第4学年 授業者 原田武敬 算数 「記録を見やすく整理しよう」
平成21年6月25日(木) 第5学年 授業者 吉井大輔 社会 「これからの食料生産とわたしたち」
平成21年9月10日(木) 第2学年 授業者 矢島いづみ 図工 「虫さんといっしょにあそんだよ」 指導者 狭山市立入間川小学校 教諭 井手尾晋一先生
平成21年10月27日(火) 第1学年 授業者 内田陽子 音楽 「リズムにのってあそぼう」 指導者 川越市立芳野小学校 教諭 栗飯原喜男先生
平成21年11月5日(木) 第4学年 授業者 鈴木雄輝 体育 「跳び箱運動」 指導者 川越市教育委員会市民スポーツ課 指導主事 西貝俊哉先生
平成21年12月3日(木) 第3学年 授業者 吉田麻美 図工 「くつ下や手ぶくろにまほうをかけると」 指導者 狭山市立入間川小学校 教諭 井手尾晋一先生
平成22年1月21日(木) 第6学年 授業者 大野拓也 体育 「跳び箱運動(器械運動)」 指導者 川越市教育委員会市民スポーツ課 指導主事 西貝俊哉先生
平成22年2月4日(木) 第5学年 授業者 関春美 音楽 「日本の音楽を味わおう」 指導者 川越市立芳野小学校 教諭 栗飯原喜男先生

## (2) 学習環境の整備

充実した学習活動を展開するために、一昨年度から学習規律の確立と基本的な生活習慣の定着を目指して取り組んでいる。本年度は、児童の実態に合わせて、学習環境や生活のきまりを見直す作業を行っている。また、児童の生活実態の変化を的確に読み取るために、昨年度と同じ内容のアンケート調査を2回行い、変容の分析を行っている。

また、アンケート結果から、清掃活動やあいさつ運動に力を入れ、児童の委員会や保護者や教職員による登校指導などと連携して、生活習慣の定着を図っている。

さらに、来年度は、学習の中で培われたコミュニケーション能力や規律ある態度が生活の中で、どのように生かされているか調査していく方向である。

## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 前年度までの研究を共通理解したことで、研究の方向が明確になり、研究のねらいに沿った授業実践が行われた。
- 研究の柱である「指導」「場」「評価」について、音楽、図工、体育の学習指導における児童の思考する場面を明らかにすることで、各教科の特性を生かした「具体的な手立て」が明確になってきた。
- 単元や題材の構想図を作成することで、学習内容や技能・表現の系統性をつかむことができ、ねらいに沿った適切な指導や支援・評価のポイントが明確になった。
- 学習に意欲的に取り組めるように、学習の規律を含めた学習環境づくりに取り組んだことで、児童は、落ち着いて授業に臨めるようになった。
- 基本的な生活習慣の定着を図るため、アンケート等の考察を通じた児童の実態把握を行うことで、適切な生活指導を行うことができた。また、19年度から継続的にアンケートによる実態把握を行うことで、児童の変容を見ることができた。

### (2) 課題

- 昨年度までは、国語、社会、算数、理科で行ってきた、コミュニケーション能力を育てることで思考力を高め、学習内容の理解・定着を図る研究を、音楽、図工、体育の3教科の特性をふまえてさらに発展、応用する研究を継続する。
- 3教科の特性を考え、学習や思考の流れを明確にした上で、教科ごとの具体的な手立てをさらに明確にしていく。
- 教科ごとの具体的な手立てを明確にしていく過程で、各教科間の関連性についても考察していく。
- 児童に伝え合うことのよさを実感させ、意欲的に取り組ませることで、引き続き学習や生活の中でコミュニケーション能力の育成を図る。
- 学習の中で培われたコミュニケーション能力が生活の中に生かされるようにする。
- よりよい人間関係をつくるために、継続的な実態把握と一人ひとりの変容を的確にとらえ、実態に応じた段階的なソーシャルトレーニングを実践していく。
- 落ち着いた学習環境を整備するために、学校生活全般において、道徳や特別活動を中心にしたよりよい人間関係づくりを行っていく。

「論理的に考え表現できる児童の育成」  
－ 論理的に考える力を育てる国語科の学習指導 －

川越市立高階小学校

研究のポイント

- 論理的な作文の指導過程の確立
  - ・帰納論理、演繹論理の形式を明確にする。
  - ・「キーワード作文、1次作文、2次作文、評価」を4～5時間で指導をする。
- 作文の指導と評価の一体化
  - ・評価の観点を明確にする。
  - ・推敲する力、自己評価する力の向上を図る。
  - ・評価の客観性や信頼性を高め、書く力の向上を図る。
- 説明的な文章の読み方指導と論理的な文章の書き方指導の工夫と改善
  - ・文章構成、キーワード（重要語句）の指導を重視する。
  - ・文章構成、キーワードを読む学習から書く学習へつなげる。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

本校では、「論理的な思考」を「筋道の通った考え方（根拠や具体例を示す、比較や統合する）」「論理の型に従った考え方（帰納論理、演繹論理）」と捉える。

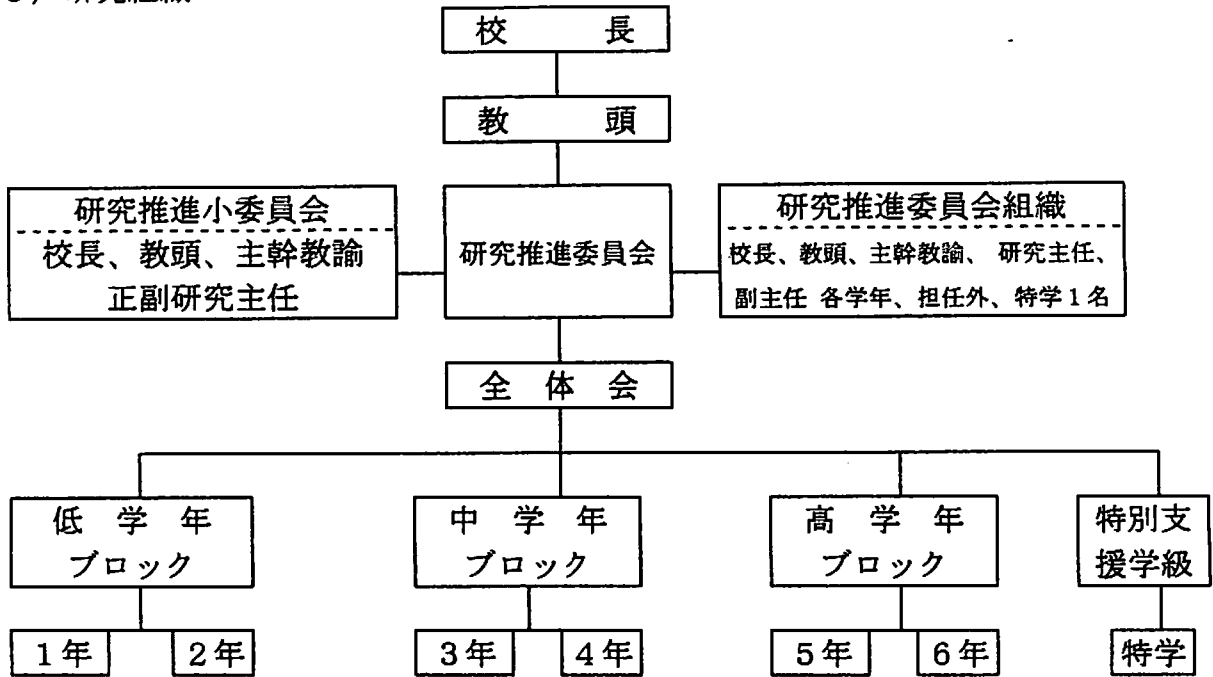
本研究では、「説明的文章の読みにおいて、キーワード（重要語句）や筋道の通った考え方、文章構成を指導すること」と「文章構成を中心に読む学習から書く学習へつなげること」で児童の論理的な思考力が高まるという仮説のもとに、筋道を立てて自分の思いを表現できる子、相手の話を注意深く聞くことができる子の育成をねらいとした。

(2) 研究主題設定理由

中央教育審議会の「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ（平成19年11月7日）」があり、その中で、PISA 調査等の国内外の学力調査から、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題に課題があると示されている。そして、これらの能力の基盤となるのは言語の能力であり、その育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があると「言語活動の充実」を示唆している。

この「言語活動の充実」にあたり、本校では「論理的に考える力を身につける国語科の学習指導法」を教師が身に付けることを課題と捉え、本年度は研究主題を「論理的に考え、表現できる児童の育成」として、前半は「論理的に考える」とはどのようなことかを研究し、後半は説明的な文章の読み方指導と論理的な文章の書き方指導を中心に、指導法の研究と授業実践を行うことにした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

わくわくタイムの充実

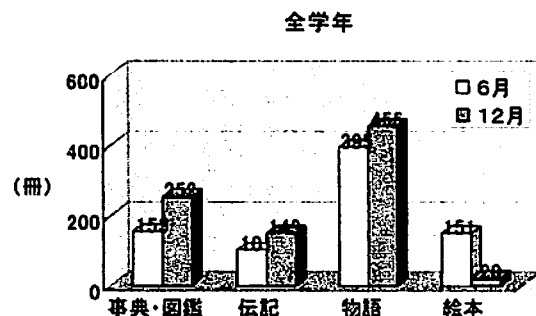
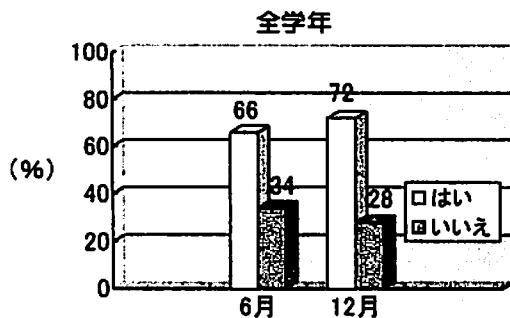
毎週、月曜日の8時25分から国語、算数の基礎・基本の定着を図るために、各調査で明らかになった課題を解決すべき問題を作成し、ドリル形式により児童の理解を確かなものにした。

学習環境の整備・充実

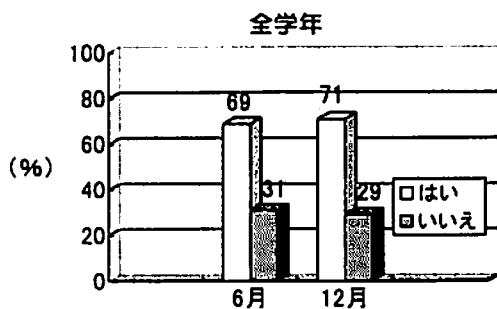
「論理的な作文」の授業に使用する「論理的な作文の仕上げ方」と「どちらがじょうずかな」の学習プリントを低・中・高学年別に作成した。

アンケート調査の有効活用

児童の実態を把握し研究の成果を検証するために、アンケート調査を6月と12月に実施した。主に児童の読書や書くことへの興味・関心の変容を学年毎に調査した。  
 (作文を書くのが好きですか) (どんな本を読みますか)



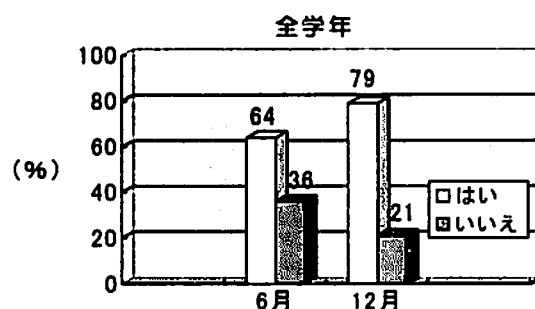
(説明文を読むのが好きですか)



わくわくタイムの風景



(キーワードの読み取りができますか)



国語授業研究会を全学年で実施



### 3 実践事例

#### (1) 学習プリント「論理的な作文の仕上げ方」

低中高の発達段階に応じて作成する。論理的な作文の形式、文章構成、文体等を繰り返し音読することで理解させる。

#### (2) 「キーワード作文」

文章構成をキーワードで組み立てる。1段落1キーワードで、一つの具体的事例について詳しく書くこと(一次作文・二次作文)につながる。低中学年では「キーワード表(ワーク)」を前段階で扱くと「キーワード作文」が書きやすい。「なか1」「なか2」と「まとめ」の関係(帰納論理)が正しいか指導・評価する。板書でのオープン添削が効果的である。

#### (3) 学習プリント「どちらが上手かな」

低中高の発達段階、作文のテーマに応じて作成する。文章構成の役割、文体等について、例文を解くことで理解させる。

#### (4) 原稿用紙

文字数、文章構成を理解させるために原稿用紙を赤線で区切る。原稿用紙は3枚必要(キーワード作文・一次作文・二次作文)である。扱いやすさからA4版とする。低中高の発達段階に応じて使用する原稿用紙を変えるか検討中。

#### (5) 板書の活用「オープン添削」

速く書けた児童、参考になる文章、指導したい文章を板書させ、添削する。児童名は記さず、添削の指導の言葉は学級全体につぶやく程度とする。全員を注目させる一斉指導はしない。児童は必要に応じて、教師の言葉を聞いたり、板書を見たりして、自分の文章に生かす。主体的に学習する場となる。

#### (6) 「評価の学習」

文章構成の役割毎に、作文例を教師が読む。児童は、耳で聞きながら、作文の良し悪しを評価する。良い例は児童の作文を使用し、悪い例は教師が作成した文章を使用する。児童名を出さないことで、内容に集中させる。沢山の良い例を聞くことで、語彙を増やし、次時への参考にさせることができる。

### 4 研究の成果と課題

#### (1) 成果

〔読むこと（説明文）〕における成果

- ① 音読することで、内容理解が深まり、キーワードを探したり確認したりするときの黙読が速くなった。特に、下位の児童では、正しく音読できるようになると内容理解が進んだ。
- ② キーワード（大切な言葉、重要語句）・文章構成（文章の組み立て）の理解が深まり、主体的にキーワードを探したり、文章構成について考えたりできる児童が増えた。また、学習の進め方が身についてきた。
- ③ 具体的な事例と事例から導き出される結論・筆者の意見を関連づけて読み取れるようになってきた。論理的な思考の仕方が身についてきた。

〔書くこと〕における成果

- ① 「はじめ」「なか1」「なか2」「まとめ」の文章構成が身につく、「なか」と「まとめ」の関係（論理性）を考える力が付いた。
- ② 「どちらが上手かな」の練習問題では正答の根拠を示すことのできる児童が増え、「論理的な作文の書き方」が身についてきた。
- ③ 形式が身についたので、「なか」をどのように書くか内容表現に指導の中心が移ってきた。オープン添削や評価の授業で「なか」を具体的に書くことや事実の描写の仕方を学ぶことができるようになってきた。
- ④ 「なか」を詳しく書くことで、個性が表われるようになってきた。上手な表現を自主的に学んだり、言葉を吟味したり、文章を推敲したりする力も付いてきた。

#### (2) 課題

- ① 年間指導計画に「論理的な作文指導」を位置付け、年間4～5回取り組めるようにする。その際、技能・指導の重点・テーマなどの系統性を明らかにしていく。
- ② 「読むこと」と「書くこと」の他に「話すこと」でも、論理的思考力を高める指導をする。教材研究を学年で進める時間を確保し、指導と評価の一体化を図っていく。
- ③ 「読むこと」では、児童に身につけさせたい力（指導事項）を明確にした授業を展開する。ポイントを絞った発問で、時間の確保をする。
- ④ 「書くこと」では、「なか」の指導が難しい。文章化のできない児童や詳しく書けない児童への指導法を研究し、指導技術を高めるとともに、形式に沿って一通りの文章が書ける児童を更に伸ばす指導法・指導技術も研究していく。
- ⑤ 「論理的な作文」の指導過程（3～4時間）の基本形を全職員が身につけ、自信を持って指導できるようにする。
- ⑥ 「読むこと」と「書くこと」を通じて培われた論理的な思考力を他教科で生かしていく。

## 研究主題

# 「共に学び合う子どもの育成」 ～集団の中で、個が生きる特別活動～

川越市立高階南小学校

### 研究のポイント

- コミュニケーション能力の育成を図る学級活動（１）の「話し合い活動」の充実
- 共に学び、高め合う集団を目指した学級活動の工夫
- 児童一人一人が集団の中で生きる学級活動、クラブ活動、児童会活動の実践

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

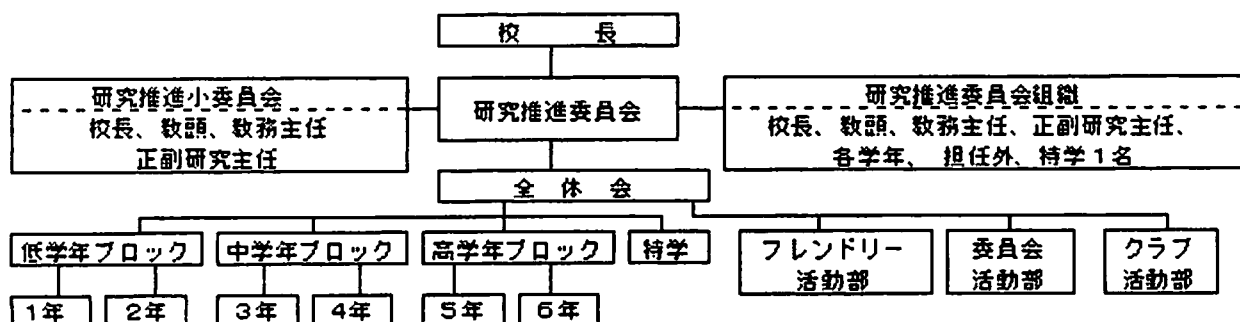
- ①学級活動の進め方を共通理解し、各学級の実践を充実して、互いを理解し合い共に高め合おうとする集団づくりをする。
- ②学級経営と関連させ、児童一人一人が活躍できる学級活動を展開する。

### (2) 研究主題設定理由

平成18年度と19年度の2年間、「共に学び合う子どもの育成」を目指し、国語科を通して伝え合う力を伸ばすことに視点をあてた研究に取り組み、成果を得た。

そこで、国語科で培われた学力を様々な場面で活用し、より確かな力として子どもたちに身に付けさせていきたいと考えた。また、本校の児童の実態から、よりよい人間関係を築くために、コミュニケーション力の育成を図ることが重要であった。それには、互いを理解し合い、共に協力し、自分たちで問題を解決していく力の育成が必要であった。また、コミュニケーション力は、集団活動の中で育成されていくものである。それらは、子どもたちの自主的な活動が中心となる学級活動を通して実践していくことで目指すことができると考え、昨年度から学級活動（1）を中心に取り組むこととした。今年度は学級活動をさらに充実させ、他の活動とも関連を図りながら「共に学び合う子どもの育成」を目指して本研究主題を掲げた。

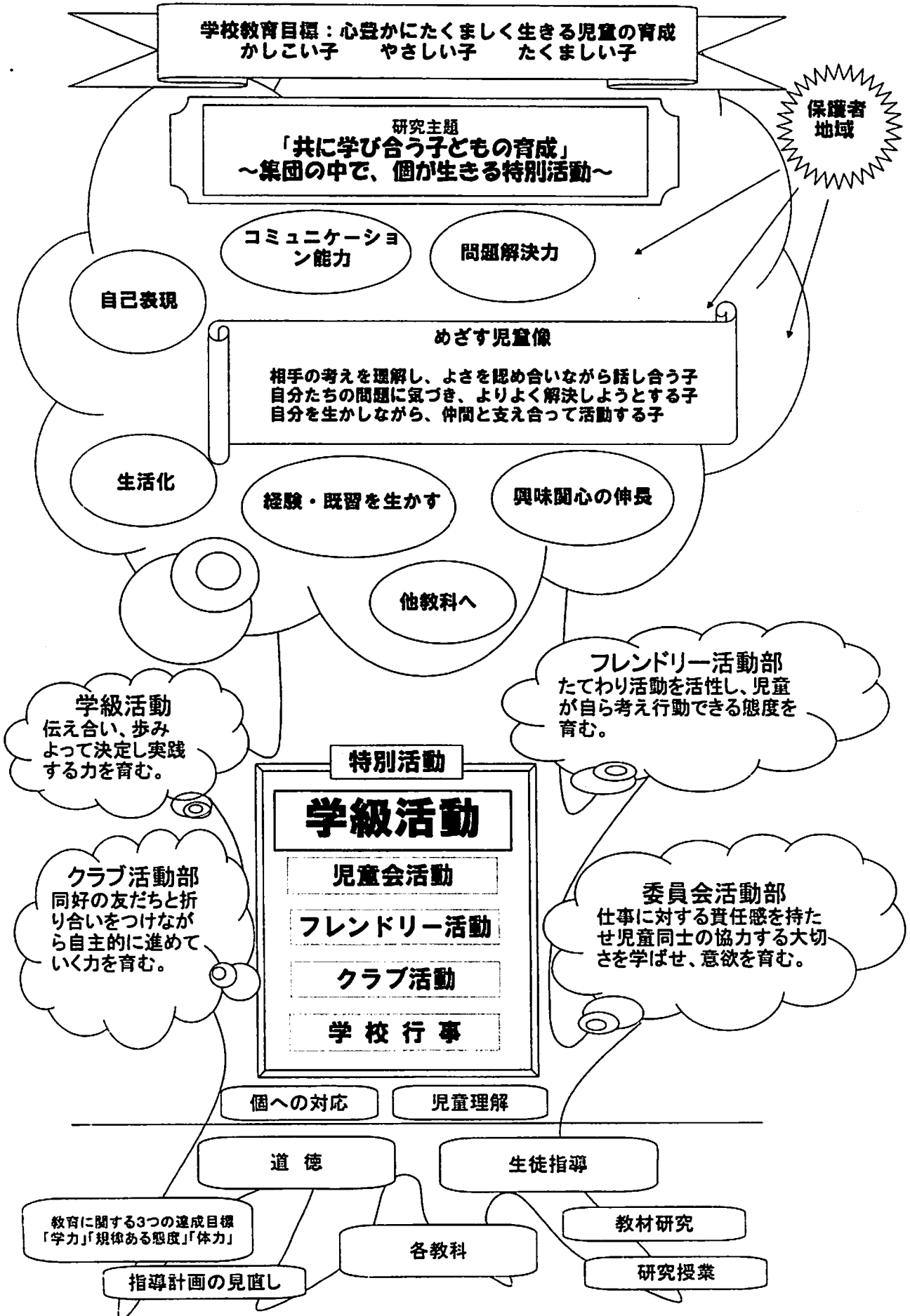
### (3) 研究組織





2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 学年ブロックの取組

- ・各学年の授業実践
- ・ブロック別の話し合いノート等の資料作り

(3) 各部の取組

- ・フレンドリー活動部…縦割り活動の充実を図る
- ・委員会活動部…児童の自主的な活動を高める
- ・クラブ活動部…児童の自主的な活動を高める

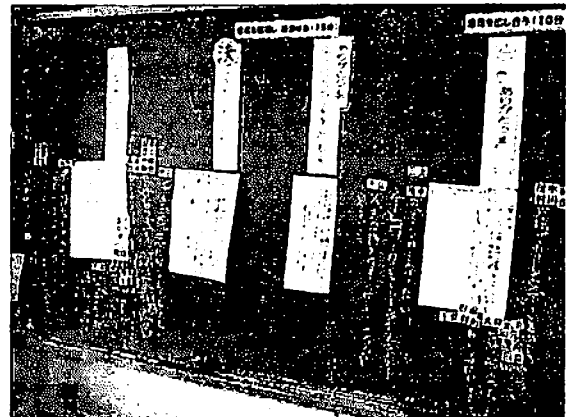
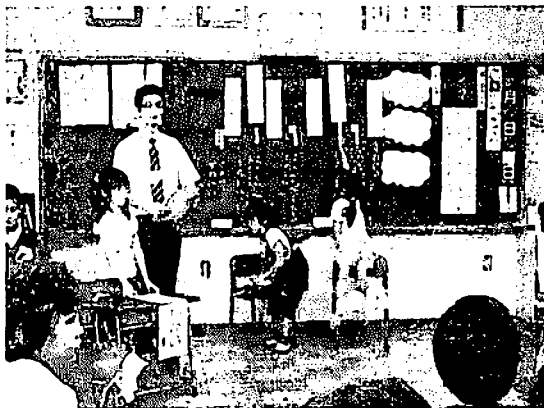
3 実践事例

(1) 授業実践

○話し合いの流れ「意見を出し合う→意見を整理する→意見をまとめる」を意識し、子どもたちの力で話し合いを進めることを目指した。

○反対意見を生かし、歩み寄りによって決定できる話し合いを目指した。

第1回 5月21日	「1組のマークを決めよう」 4年1組 浅見久江
第2回 6月22日	「もっとよろこんでもらえる おたんじょうかいにするためにやることをきめよう」 1年3組 小池宏昭 指導者 川越市立教育研究所指導主事 森田 恵先生
第3回 10月26日	「2年1組の秋まつりをしよう」 2年1組 田丸佳子 指導者 川越市立武蔵野小学校教諭 堀口 雪子先生
第4回 11月16日	「『チームワークでなんでもチャレンジ6の3!』をパワーアップしよう」 6年3組 松井広義 指導者 川越市立牛子小学校教諭 遠藤 千絵先生
第5回 11月30日	「仲よし集会の内容を決めよう」 4年3組 吉敷勝江 指導者 川越市立川越小学校教諭 加藤 法子先生



(2) 学級活動を進める具体的な手立て

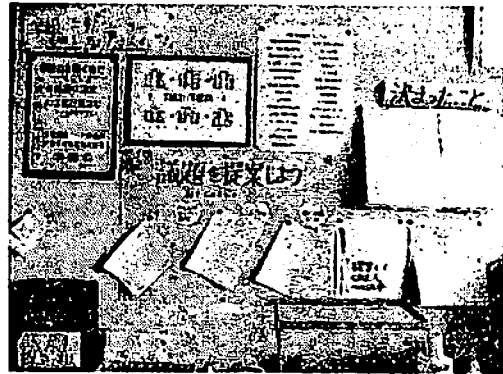
① 模擬学級会の実施

指導方法の共通理解を図るために、教師が実際の話し合い活動を体験した。その中

で、ノートやカード等の使い方や指導のポイントを確認し、授業実践にすぐ役立てるようにした。

### ②学級活動コーナー作り

ブロック毎に必要な掲示物を用意し、学級活動への意欲を高める環境作りを進めた。



### ③話し合い活動のグッズ作り

子どもたちが自主的に話し合いを進めることができるように、助けとなる道具や進行カード等の工夫をした。

## (3) 各部での取組

### ①フレンドリー活動部

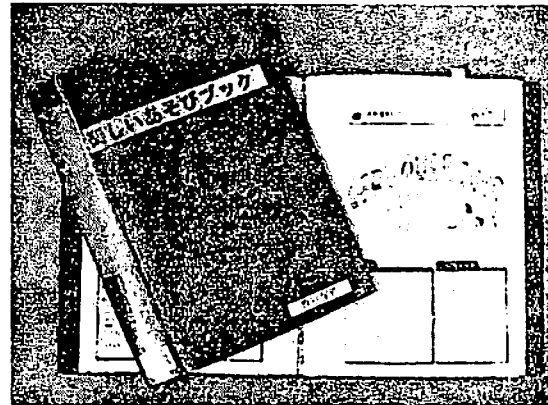
- ・フレンドリー活動の時間の見直し
- ・遊びブック作り
- ・全校集会の遊びの工夫

### ②委員会活動部

- ・委員会の連絡コーナー作り
- ・委員会活動ノートの見直し

### ③クラブ活動部

- ・クラブの連絡コーナー作り



## 4 成果と課題

### (1) 成果

ア 学級会を進めていく段階で、児童は決定に際して建設的な意見を出し、歩み寄りによる解決ができるようになった。また、自らの考えに自己決定をくだし、行動に移せる児童が出てきた。

イ 集会活動の経験が増えると、基本のプログラムが頭の中に入り、イメージを持って、集会の目標を意識して活動できる子がでてきた。

ウ 学級会用グッズづくりを始め、担任全員の授業研究やそれに関わる研修を行った結果、教員同士の共通理解が深まり、同一歩調による指導の向上が見られた。

### (2) 課題

ア 多様な話し合いを経験させ、話し合いの質を高める意図的な働きかけの指導の在り方の研究を行っていくこと。

イ 学級会から児童会活動やフレンドリー活動、学校行事、他教科等へ児童自ら関わられる場の設定等、意図的・計画的な実践ができるようにしていくこと。

## 研究主題

# 「確かな言語能力を育む国語科指導」

－読むことの学習を通して－

川越市立川越西小学校

### 研究のポイント

- 言語能力の育成を学校課題として捉え、国語科指導の研究に取り組んだ。
  - ・学習活動と学習内容を吟味し、学習過程を明確にする。
  - ・課題解決的な学習過程を取り入れ、読み取る方法を工夫する。
  - ・目的に応じて図書資料を利用できる場を工夫する。

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

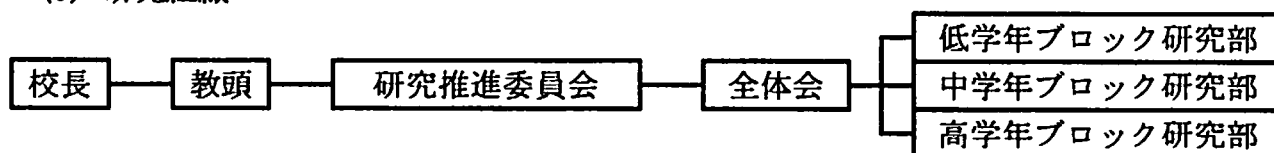
本校の教育目標「自ら学び続け、たくましく生きる力を獲得できる児童の育成」の具現化を図るため、以下のようなねらいで学校研究に取り組んだ。

- ①児童の言語能力の育成をめざし、読むことを中心に基礎的な知識・技能の習得と主体的に学ぶ力を身に付けさせる国語科指導法の工夫改善を図る。
- ②国語科授業の基礎・基本を明らかにし、全員が指導者を招いての研究授業を行うことで教師一人一人の授業力の向上を図る。
- ③各種学力調査やアンケート等を分析活用して、本校児童の実態にあった指導計画の改善・指導法の工夫や言語環境の整備充実を図る。

### (2) 研究主題設定の理由

平成20年3月に告示された学習指導要領では、改善の基本的な考え方の一つに思考力・判断力・表現力の育成があげられている。これらの力を育むために、音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において記録、要約、説明、論述といった学習に取り組む必要がある。本校では、このような新学習指導要領の趣旨と本校の児童の実態を踏まえ、言語を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力を育むことを目的に、研究主題を「確かな言語能力を育む国語科指導」副題を「読むことの学習を通して」と設定した。

### (3) 研究組織

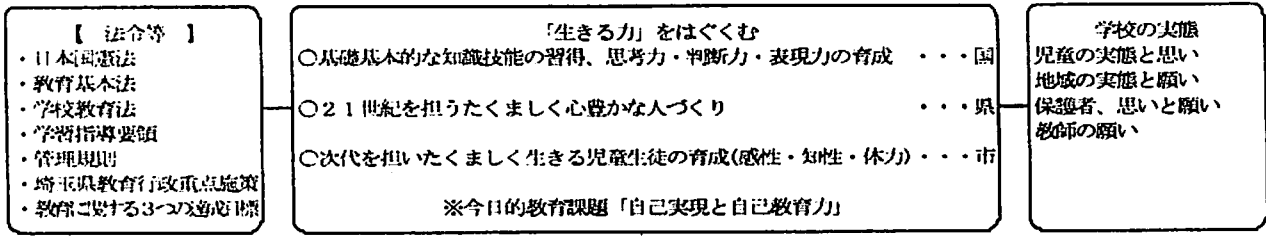


- ・職員数は多くないので、研究推進委員会で理論、授業環境等の全ての研究に関することを一元的に推進することとした。

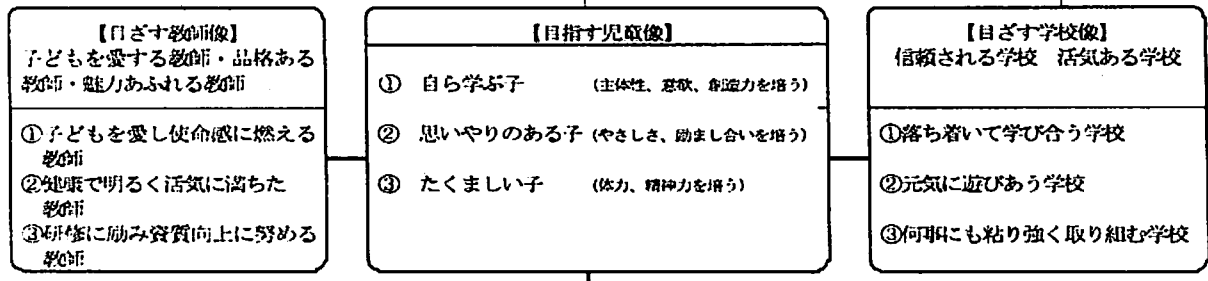
## 2 研究の内容

### (1) 平成21年度 研究構想

川越市立川越西小学校



【 学校教育目標 】  
自ら学び続け、たくましく生きる力を獲得できる児童の育成



研究主題  
**確かな言語能力を育む国語科指導**  
～読むことの学習を通して～

めざす児童像

国語の学び方がわかり、意欲的に学習に参加する子	読み取ったことをもとに、筋道を立てて考え、表現する子	必要な図書資料を選んで読む子
-------------------------	----------------------------	----------------

仮説

1 学習過程を明確にすれば、児童は見通しを持った学習ができるようになり、意欲的に取り組むであろう。	2 読み取る方法を工夫すれば、正確に読み取る力が高まり、自分の考えを筋道を立て、表現できるであろう。	3 目的に応じて図書資料を利用する場面を設定すれば、活用の意欲が高まり、児童が本を選び読むであろう
---	--	---

手だて	<p>○単元全体の学習計画を提示し、学習の見通しを持たせる。</p> <p>○1時間毎の学習の流れを決め、学び方を習慣化する。</p>	<p>○動作化や役割読みを取り入れ、登場人物の様子や気持ちを想像させる。</p> <p>○一斉音読、指名音読、各自の音読等学習場面に適した音読を取り入れる。</p> <p>○児童の実態に合わせたワークシートを作成する。</p> <p>○場面の情景や登場人物の気持ちの変化など各場面の課題解決につながる語句や文にサイドラインを引かせ、ノートに自分の考えを書かせる。</p> <p>○想像し読み取った内容を話し合ったり、音読で表したりする。</p>	<p>○筆者の著書を準備し、読書に親しめる場を設定する。</p>
中学年	<p>○学習のめあてと単元全体の学習の見通しを持たせる。</p> <p>○学習計画を提示(掲示)し、学習課題や学習活動がわかるようにしておく。</p> <p>○1時間毎の学習内容や学習方法を理解させ、学び方を習慣化する。</p>	<p>○場面的情景や登場人物の気持ちの変化など各場面の課題解決につながる語句や文にサイドラインを引かせたり、視写させたりしてなぜ、その文や語が重要といえるのか、そして自分はどう考えるのか等書き込む事を通して、自分の考えを根拠を持って明確にできるようにする。</p> <p>○想像し読み取った内容を話し合ったり(広げ・深める)、文や音読で表現(まとめ)したりする。</p>	<p>○同筆者の著書やテーマにそった本を用意し、読書の時間を設け、読書に親しむようにする。</p> <p>○読んだ本についての記録や、物語に関する資料を掲示する場を設定し、情報を共有する。</p>
高学年	<p>○学習のめあてを提示する。</p> <p>○前時までの学習内容を生かした学習の計画を提示(掲示)し、単元全体の学習課題や学習活動がわかるようにしておく。</p>	<p>○場面的情景や登場人物の気持ちの変化など各場面の課題解決につながる語句や文にサイドラインを引かせたり、視写させたりしてなぜ、その文や語が重要といえるのか、そして自分はどう考えるのか等書き込む事を通して、自分の考えを根拠を持って明確にできるようにする。</p> <p>○想像し読み取った内容を話し合ったり(広げ・深める)、文や音読で表現(まとめ)したりする。</p>	<p>○同筆者の著書やテーマにそった本を用意し、読書の時間を設け、読書に親しむようにする。</p> <p>○読んだ本についての記録や、物語に関する資料を掲示する場を設定し、情報を共有する。</p> <p>○読後の感想を書き留めておく。</p>

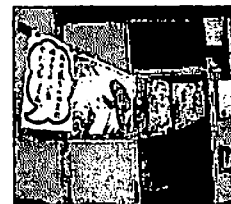
## (2) 実践事例（手だてに対する取組の工夫について）

挿絵を使った計画表

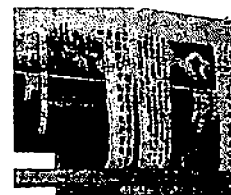
### ① 仮説1の手だて

学習活動と学習内容を吟味し、学習過程を明確にする。

学習目標を確実に達成する上で大切な学習活動と学習内容を熟考し、指導案に示すことにより、児童が何を学びどんな力の習得をめざしているのか、授業者が明確に意識できる取組を進めた。また、児童に対しても、自分が何を学び、どんな力を高めるのか明確に理解できるように、単元に応じて学習計画表を掲示す取組も行った。この計画表には、時間のめあて、単元のめあて、教材名、学習目標、学習期間等が示され、内容は学年に応じて言葉を精選したり、授業に活用した挿絵を利用したりして工夫した。掲示場所は常に見やすい場所を選び、授業中に振り返ることにも活用した。



低学年



中学年

### ② 仮説2の手だて

課題解決的な学習過程を取り入れ読み取る方法を工夫する。

課題にそって、まず、自分の考えとその根拠を明確にし、他の考えや根拠と比較した上で、自分の考え方や表現方法を自己評価する取組を進めることを通して、読み取り方、学び方を児童に身につけさせる学習の流れを工夫した。学年に応じて、音読や動作化、サイドライン等、中心となる読み取りの学習活動を工夫した。

< 1時間の学習の流れ > 例 5年生



①学習課題の提示



②自力解決



③交流



④課題に立ち返る

### ア 音読

低学年では、読み取ったことを気持ちに込め、音読で表現し、他者の音読と比較することによって自分の読み取りを見直す実践に取り組んだ。



学習目的に応じた音読

- ・一斉音読
- ・各自の音読
- ・役割読み
- ・二人組になつての読み聞かせ等

### イ 動作化

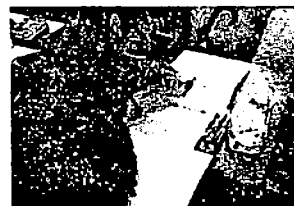
低学年では、登場人物になりきり、演じる、動作化についても取組を進めた。自分と登場人物を一体化することで、演技を重ねるたびに、読み取った考えを何度も考え直すことができた。その結果、読み取った内容は深まっていた。



音読+動作化の取組

### ウ サイドライン（書き込み）

3年生以上では、学年に応じて、キーワードに着目した読み取りを学習活動の中心に位置づけた。課題に応じて、重要だと考える文や語にサイドラインを引き、なぜその文や語が重要といえるのか、そして自分はどのように考えるのか等書き込み、自分の考えを根拠を持って明確にする取組を進めた。また、自分の考えを文で整理することによって、他者に考えを分かりやすく伝えたり、他者の考えを正確に聞いたり比較したりする学習が深まった。



書き込みの取組

### ③ 仮説3の手だて

目的に応じて図書資料を利用できる場を工夫する。

図書室「たからのもり」では、季節に応じた児童向け図書の紹介コーナーを充実したり、担任の推薦する本を紹介したりして、児童が本に親しみやすい環境へと整備を進めた。

各学年においては、担任が必要な本を紹介できる棚（図書コーナー）を設置し、学習している作品の著者が著した他の作品や他の著者の同分野の本を提示し、目的に応じて図書資料を利用しやすい場面を設定した。



図書の紹介コーナー



学年の図書コーナー

## 3 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ・低学年では、音読や動作化を通して、伝え方・話の聞き方等、入門期の学び方の素地が、中・高学年では、課題解決的学習を通して、自分の考えを明確にし、他の考えと比較する学び方が身に付いてきた。
- ・低学年では児童の実態に合わせたワークシートを活用した読み取り、中・高学年ではキーワードに着目した読み取りの授業実践を重ねた結果、言葉に対する意識が高まり、正確に読み取る力が高まった。

### (2) 課題

- ・学習目的に応じて教材を選び、そのよさを生かす課題や発問、学習活動と学習内容の工夫等、教材研究の進め方を更に充実させていく必要がある。
- ・読み取った考えを、筋道を立てて表現し伝える取組について、更に工夫していく必要がある。

## 研究主題

「自ら進んで主体的に健康づくりに取り組む生徒の育成」  
～基本的な生活習慣の定着をめざした歯・口の健康づくりに関する指導～

川越市立東中学校

### 研究のポイント

- ・ 学校生活の規律ある態度を身につけさせるために、生徒会生活委員会の活動を通し、生活習慣の定着を図る。
- ・ 「教育に関する3つの達成目標」、全国学力学習状況調査、本校独自の調査（3達、全国調査を参考に作成）データをもとに、生徒の実態を把握し、家庭での学習意欲の向上を目指した支援の工夫・改善を図る。
- ・ 生徒の健康に関する自己管理能力を高めるために、歯・口の健康づくりを中心に生徒会保健委員会の年間活動計画に位置づけ、啓発に努める。

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

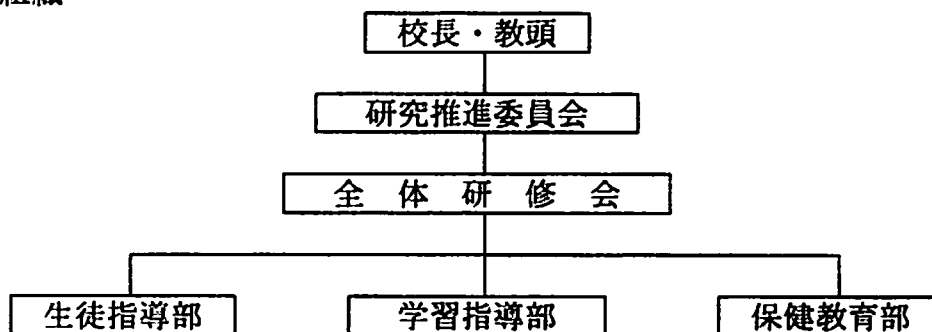
- ① 規律ある態度を身につけ、主体的に取り組む学習意欲の向上を目指す
  - ② 歯・口の健康づくりを中心に、生活習慣の定着を図る
- をねらいとして、研究を推進する。

### (2) 研究主題設定理由

「教育に関する3つの達成目標」や全国学力学習状況調査、本校独自の調査のデータから、深夜まで睡眠時間を削ってのファミコンやゲームに夢中になり、家庭学習にあてる時間の短さなど、本校の生徒の家庭での不規則な生活の傾向が見られた。生活習慣病予防等をめざすには、家庭における基本的な生活習慣の確立が前提となる。しかし、生徒の生活実態からは前述の問題点を解決することなしには目標を達成することはできない。

そこで、この問題点を解決していくために、学校では基本的な学習環境の整備、歯・口の健康づくりの推進を通し、生徒自ら主体的に基本的な生活習慣の確立を図ることができる生徒を育成することが必要である。

### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

### ○ 研究仮説 1

- ・ 班活動の過程で、観点カードを工夫した班活動の見直しをすれば、規律ある態度や生活習慣が身に付くであろう。

### ○ 研究仮説 2

- ・ 1日の生活を見直させる過程において、学力の向上を可能にする評価方法をよりよい生活習慣が身に付くであろう。

### ○ 研究仮説 3

- ・ 歯と口の健康について正しい知識を身に付ければ、主体的に健康づくりに取り組



む生徒を育成できるであろう。

- ・体験的な学習活動を通し、地域や家庭との関わりがもてる教育活動を工夫すれば、基本的な生活習慣が身に付くであろう。

### 3 実践事例

#### (1) 生徒指導部

学習環境を整えるための具体的な手立て

- (ア) 生徒会専門委員会の生活委員会の活動として、落ち着いた生活環境を整えるために、身だしなみ(名札、服装)、チャイム着席等の定期的な点検を実施し、学習規律の見直しを図った。
- (イ) 班活動の取組を見直し、一人一人が班の係に責任を持ち、よりよい人間関係づくりに取り組んだ。
- (ウ) 教職員による日常生活の中での生徒への言葉かけに心がけ、生徒自身が抱えている悩み等の援助に努めた。

#### (2) 学習指導部

学習習慣の定着を図るための家庭学習の仕方を工夫させる手立て

- (ア) 定期テスト10日前の学習計画表を工夫し、学習習慣を見直させた。
- (イ) 定期テスト後、Sメールを活用した生活リズムの定着を図るために、担任による一言を記入することにより、生徒への問題点等を気づかせるきっかけとした。
- (ウ) Sメールを活用した歯みがきチェック(朝、昼、夜)を実施することにより、習慣化を図った。
- (エ) 冬休みの学習計画表を通し、学校と保護者の連携を図り、学習の習慣化を推進した。

#### (3) 保健教育部

##### (ア) 歯科ポスターコンクールへの出品

美術部が川越市の歯ッピーフェスティバルへ作品を出品したところ、2作品が入賞した。表彰式の模様は、川越ケーブルテレビで放送された。この2作品は、埼玉県歯科ポスターコンクールにも出品され入選した。



##### (イ) 全校生徒で歯の標語を作成

- ・実施期間 6月1日(月)～5日(金)の間→朝・帰りの会を使って作成。
- ・流れ 各クラス2点選出→2点×12組=24作品を生徒・教職員で審査→各クラスで投票(保健委員が集計)→朝会で審査結果を発表し表彰
- ・賞の種類 ①最優秀賞②優秀賞③優良賞④特別賞⑤入選(賞の順位①→⑤の順)
- ・受賞作品 最優秀賞:「私の歯 一生使う パートナー」2年  
優秀賞:「きれいな歯 すてきな笑顔のもとになる」3年  
「守ろうよ 光る白い歯 君の手で」1年

右の写真は賞状伝達の様子です。  
朝会の時に行いました。



##### (ウ) 学校行事:「ふれあい講演会」で学校歯科医の講演

卒業生や地域で活躍する方が講師となり講演会を通して、生徒の将来の夢や希望を育み、進路意識の啓発・高揚を図るのがこの講演会の目的である。

日頃お世話になっている学校歯科医の篠田俊雄先生から、今まで自分の歩んだ人生を振り返り、夢や目標を実現させるために必要なことをあらゆる観点から教えていただいた。

<「ふれあい講演会」の時の様子>



左の写真は「みなさん勉強は好きですか？嫌いですか？」と学校歯科医の篠田先生が問いかけ、それに答える生徒の場面です。

好きと答える人はあまり見かけませんでした。先生からの楽しい質問に生徒全員が真剣に答えていました。

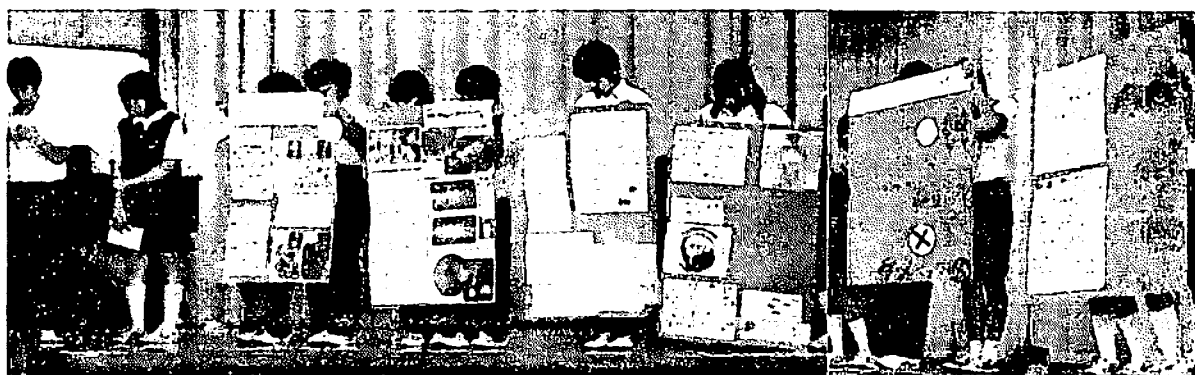
(篠田俊雄先生の講演内容の一部)

学校は勉強をするところ。朝起きてごはんを食べないで登校すると、朝から頭が働かず、ボーッとした状態で過ごすことになるよ。だから、夜は早く寝て朝ごはんを食べることが大切。その習慣をつけよう。また、歯周病も生活習慣病の一つ。予防のためには食後の歯みがきと定期的に検診を心がけてほしい。

#### (エ) 生徒会活動

生徒会保健委員会による歯と口の健康に関する発表（7月生徒朝会で発表）

\*生徒がタバコの害について発表している様子です。



『(台詞) タバコの煙によって歯肉の血行が悪くなることで、歯と歯肉の間の歯周ポケットで病原菌を繁殖させ歯肉を腐らせます。タバコは“百害あって一利なし”です。』

#### (オ) 集会活動

川越市歯科医師会・川越市教育委員会との連携により、1年生を対象に学校歯科医による秋の歯科保健指導を展開している。

- ・日 時 平成21年11月25日（水）第3校時
- ・会 場 本校体育館
- ・次 第
 

①はじめの言葉	⑤学校歯科医の先生のお話
②校長先生のお話	⑥お礼の言葉
③歯・口の健康に関するお話	⑦おわりの言葉
④歯科アンケート調査結果発表	

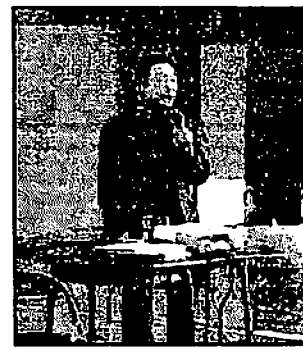
<秋の歯科保健指導の様子>



司会 2 人の様子



アンケート調査結果発表



関口先生のお話

生徒の感想（一例）：今日のお話で歯を大切にするためにしっかり歯みがきをしようと思いました。それにお母さんが、タバコを吸っているのをやめさせたいです。これからは私も 8020 運動を目指してがんばります。』

(カ) 学級活動 歯垢染め出しの実施(1月の身体測定の時間と並行して実施)

- ・実施日：平成22年1月12日(火) 1校時1年～3校時3年
- ・準備するもの：手鏡、歯ブラシ、歯みがき粉、赤えんぴつ、コップ、タオル(汚れても可のもの)、歯垢染め出し綿棒1本
- ・担任の指導(実施方法について説明する)
  - ①「歯・口の健康観察ノート」を配布し、プリントを貼る。
  - ②セルフチェックカードの記入をし、レーダーチャートを作成する。  
前回のものと比べて生活面を振り返らせる。
  - ③歯肉の健康状態を観察し、よいものは○、よくないものは△を記入する。
  - ④歯垢染め出しを行う。
  - ⑤赤い部分を記入する。
  - ⑥実施後の感想を記入する。
  - ⑦「歯・口の健康観察ノート」は、担任の先生がコメントを入れて、家庭で記入し、提出させること。



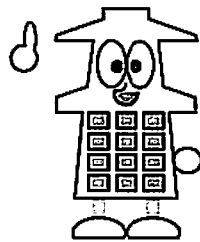
4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・長期休業中の学習計画表やsメールを活用し、自ら計画を立て、意識した行動ができつつある。
- ・生徒・教職員ともに生活環境を整えるようになり、落ち着いた行動をするようになった。
- ・生徒保健委員が積極的な活動をしているので、健康への関心が高まってきている。

(2) 課題

- ・基本的な生活習慣の確立のために、家庭との連携が上手くいく手立てをさらに考えいきたい。
- ・体験活動を通して達成感や成就感を得ることで、生徒の自律した行動につなげていくようにしたい。
- ・基礎的・基本的な内容の定着をめざした学習指導を工夫するには、教材研究をしていくことが必要である。



©教育研究所 2009

\*本冊子の内容は、川越市立教育センターホームページにも掲載されております。

川越市公式ホームページ → 市民便利帳 → 「教育」教育センター → 「川越市立教育センター」調査・研究 → 教育センター 調査・研究 → 「研究集録（委嘱学校研究資料）」平成21年度研究集録 を御覧ください。

<表紙の絵> 「にぎやかな川越まつり」 川越市立南古谷中学校 1年 天野 由貴さん